

2019年度  
新潟大学教育学部 年報

THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

18

## 教育学部年報2019目次

<b>1. イベント・カレンダー</b> .....	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
<b>2. 特色ある教育活動</b> .....	4
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 「フレンドシップ実習」の概要	
2.3 入門教育実習	
2.4 佐渡実習	
2.5 研究教育実習	
2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業	
2.7 教育実習	
2.8 介護等体験	
2.9 各課程の特色ある教育活動	
2.10 中・高校生等の大学見学	
<b>3. 就職支援</b> .....	24
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用試験対策支援プログラム	
3.3 3年次生向けキャリア支援ガイダンス	
3.4 企業・公務員希望者向け就職ガイダンス	
3.5 臨時教員希望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教職サポートルーム	
<b>4. 学部FD</b> .....	30

<b>5. 地域貢献</b> .....	31
5.1 令和元年度中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」	
5.2 教育委員会との連携事業	
5.3 委員等就任状況	
<b>6. 国際交流</b> .....	37
6.1 学術交流（研究者派遣）	
<b>7. 附属施設の活動</b> .....	41
7.1 附属新潟小学校	
7.2 附属新潟中学校	
7.3 附属特別支援学校	
7.4 附属幼稚園	
7.5 附属長岡小学校	
7.6 附属長岡中学校	
<b>8. 外部資金</b> .....	59
8.1 科学研究費助成事業	
8.2 寄附金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	

**[巻末資料]**

入学者状況

就職状況

附属学校生徒数

# 1. イベントカレンダー

## 1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	2日	入学者受付
	3日	新潟大学入学式，教育学部新入生保護者懇談会，介護等体験事前指導
	4日	教育学部学年別ガイダンス（1年次，3年次）
	5日	教育学部学年別ガイダンス（1年次，2年次，4年次）
	8日	第1学期授業開始
	11日	教員志望学生向け特別講座（教職理解特別講座（応用コース・基礎コース）～R2 1/23）
	13日	黎明祭
	23日	新潟県公立学校教員採用選考検査（願書受付期間）（～5/24） 新潟市立学校教員採用選考検査（願書受付期間）（～5/24）
	24日	教採合格ガイダンス（4年次学生向け）
6月	3日	春期教育実習（～6/14）
	18日	教員採用試験対策支援プログラム（理科実技試験対策～6/21），教育学部後援会役員会
	20日	教員採用試験対策支援プログラム（小論文指導）
	21日	教員採用試験対策支援プログラム（教採対策講座（特別支援教育））
	随時	教員採用試験対策支援プログラム（音楽実技試験対策・体育実技試験対策）
7月	6日	教育学部後援会理事会・総会
	7日	新潟県公立学校教員採用選考検査（第1次検査），新潟市立学校教員採用選考検査（第1次検査）
	19日	キャリア支援ガイダンス（3年次学生向け）
	30日	教員採用試験対策支援プログラム（教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学） 第1学期定期試験（～8/5），新潟市中堅教諭等資質向上研修（～12月）
8月	1日	教員採用試験対策支援プログラム（場面指導）
	5日	教員採用試験対策支援プログラム（模擬授業～8/7）
	8日	新潟大学オープンキャンパス（～8/9）
	11日	夏期休業（～9/30）
	17日	新潟県公立学校教員採用選考検査（第2次検査）（～8/20） 新潟市立学校教員採用選考検査（第2次検査）（～8/18）
9月	2日	観察・参加実習（～9/6）
	20日	秋季卒業式
	27日	全学就職総合ガイダンス
10月	1日	秋季入学式，第2学期授業開始
	7日	教員採用検査受験予定者向けガイダンス（3年次学生向け）
	17日	三条市教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	19日	新潟大学Week 2019（～10/27）・新大祭（～10/20）
	21日	秋期教育実習（～11/1）
	31日	臨時教員採用希望者登録ガイダンス
11月	11日	企業・公務員希望者向け就職ガイダンス
	23日	教育学部推薦入学試験・養護教諭特別別科入学試験
	26日	教育学部教育実習運営協議会
12月	18日	養護教諭特別別科入学試験 合格者発表
	27日	冬期休業（～1/5）
1月	6日	授業開始
	18日	大学入試センター試験（～1/19）
	22日	第2学期定期試験（～2/10）
	23日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会
2月	10日	推薦入学試験 合格者発表，新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	12日	教員採用試験対策支援プログラム（教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス）
	13日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	25日	新潟大学入学試験（前期日程）（～2/26）
3月	8日	新潟大学入学試験（前期日程）合格者発表
	11日	春期休業（～3/31）
	12日	新潟大学入学試験（後期日程）
	17日	教育学部後援会理事会（中止）
	22日	新潟大学入学試験（後期日程）合格者発表
	23日	新潟大学卒業式（中止），教育学部卒業祝賀会（中止）

## 1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》

《 附属新潟中学校 》

《 附属特別支援学校 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	5	着任式, 1学期始業式, 入学式	8	新任式, 第1学期始業式
	16	第1回父母教師会実行委員会	18	全国学力・学習状況調査(3年)	9	入学式
	18	全国学力・学習状況調査(6年)	22	第1回父母教師会実行委員会	17	高等部3年生修学旅行(~19日)
	19	1年生を迎える会	26	授業参観, 父母教師会総会, 教育振興会総会	19	中学部遠足
	22	第1回避難訓練				
	26	全校参観日・父母教師会総会				
5	18	附属大運動会	11	第46回ときわ体育祭	8	第1回避難訓練
	21	第2回父母教師会実行委員会	16	ボランティア発足式	10	小学部遠足
	22	佐渡自然教室(5年)(~24日)	24	第1回生徒総会	25	運動会, 入門教育実習①
	27	GATA-KEN公開授業研究 <small>(N新潟大学)</small>	31	1学期定期テスト(~3日)		
6	1	GATA-KEN公開授業研究	3	1学期定期テスト(31日~)	3	春期教育実習(~15日)
	3	春期教育実習(~14日)	3	春期教育実習(~14日)	17	高等部職場実習(~7/6)
	6	1~4年登山(弥彦山)	7	すなやま完歩大会		学校説明会①
	14	第2回避難訓練	18	新潟市体育大会(~29日)	24	学校説明会②
	24	全校学習参観日				
7	23	1学期終業式	1	演劇鑑賞教室	4	中学部校内宿泊学習(~6日)
	26	市陸上記録会	9	第1回学校評議員会・いじめ対策委員会	24	第1学期終業式
			11	午前授業・個別懇談会(~17日)		
			13	県総合体育大会(~26日)		
			19	1学期終業式		
			26	NHK合唱コンクール新潟地区大会		
8	1	新潟市水泳記録会	5	新潟市広島平和記念式典派遣(~7日)		
	26	2学期始業式	23	2学期始業式		
	30	全校学習参観日				
9	2	2年次観察参加実習(~6日)	2	2年次観察実習(~6日)	2	第2学期始業式
	3	立山自然教室(6年)(~6日)	11	父母教師会実行委員会	6	第2回避難訓練
	12	第3回父母教師会実行委員会	14	演劇発表会	10	高等部特体連スポーツ大会
	17	附属オータム研修会(~28日,全4回)	24	2学年職場体験学習(~26日)	12	中学部3年生修学旅行(~14日)
			27	全附属北信越福井大会	24	高等部職場実習(~10/12)
10	3	入学希望説明会	4	市総体(西地区~11日)	15	入学者選考検査
	12	附属アートミュージアム	6	学校説明会	18	入学許可者公示
	21	秋季教育実習(~11月1日)	18	教育研究発表会	21	秋期教育実習(~11/2)
	24	クロスカントリーin母の森	21	秋季教育実習(~11/1)		
	29	GATA-KEN公開授業研究				
11	3	GATA-KEN	1	国民文化祭・連句の祭典	29	特別支援教育研究会
	16	附属ミュージックステーション	11	2学期定期テスト(~12日)		
	21	第3回附属三校合同避難訓練	16	第39回音楽のつどい		
			21	第3回附属三校合同避難訓練		
12	1	新1年生入学選考①	3	生徒会立会演説会	23	第2学期終業式
	2	新1年生入学選考②	7	新1年生入学選考(~8日)		
	23	2学期終業式	23	2学期終業式		
1	8	3学期始業式	7	3学期始業式	8	第3学期始業式
			14	3年進路懇談会(~16日)	14	新入生保護者説明会
			24	第2回生徒総会	25	すなやま祭
2	6	初等教育研究会①	3	3年3学期定期テスト(~4日)	3	高等部体験入学
	7	初等教育研究会②	6	1年「東京班別学習」(~7日)	4	中学部体験入学
	13	第4回父母教師会実行委員会	12	公立特色化選抜日	5	小学部体験入学
	20	新1年生保護者入学説明会	14	父母教師会実行委員会	7	中学部スキーソリ教室
	29	GATA-KEN公開授業研究会(新型コロナウイルス感染症拡大予防臨時休校中のため未実施)	17	1, 2年3学期定期テスト(~18日)	28	小学部6送会, 中学部3送会, 高等部3送会
3	5	6年生を送る会(新型コロナウイルス感染症予防対策臨時休校中だったため未実施)	5	公立入試学力検査(~6日)	18	卒業式
	9	学年部学習参観(~11日)(新型コロナウイルス感染症予防対策臨時休校中だったため未実施)	13	第2回学校運営協議会・いじめ対策委員会	19	第3学期終業式(新型感染症流行に伴う休校措置に伴い, 中止)
	18	終業式(新型コロナウイルス感染症予防対策臨時休校中だったため未実施)	25	第72回卒業証書授与式	25	離任式(新型感染症流行に伴う休校措置に伴い, 中止)
	19	第73回卒業証書授与式				
	26	離任式(新型コロナウイルス感染症予防対策臨時休校中だったため未実施)				

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	5	着任式、1学期始業式、入学式	4	着任式、始業式	5	1学期始業式
	15	全校仲良しの会	5	入学式、1年PTA入会式	8	入園式
	17	学習参観日	8	情報モラル講演会	22	こんにちはの会
	26	校園合同避難訓練	10	生徒会入会式	24	交通安全教室
			12	2・3年PTA	24	個別懇談会(～26日)
			15	PTA役員全体会・評議員会①	28	合同避難訓練
5	25	校園大運動会(校園合同)	7	生徒会計画総会	25	校園大運動会
			9	授業スキル公開講座		
			25	校園大運動会、入門教育実習		
6	3	春期教育実習(～14日)	3	春期教育実習(～6/14)	3	春季教育実習(～14日)
	17	学習参観日(心の教育)	4	初任者研修授業公開	5	悠久山遠足
	18	初任者研修①	21	中越地区各種大会(～6/29)	17	プール開き
	20	4年サマースクール(～21日)	27	親子で聞く講演会(加藤秀一様)	22	家族参加日(土曜参観)
	27	1～3年わくわく発見遠足			27	入門教育実習
7	1	6年三者面談(～3日)	2	人権作文講演会	1	保育参観・学級懇談会(～3日)
	6	オープンスクール・学校説明会・学習参観日・教師力アップセミナー	4	オープンスクール・進路説明会・地区懇談会	10	にこにこ子育てハッピー講座③
	16	児童引き渡し訓練	9	入門教育実習	19	1学期終業式
	17	5・6年赤城自然教室(～19日)	13	県総合体育大会		
	23	家庭訪問(～26日)	21	中越地区吹奏楽コンクール		
			24	保護者面談(～7/26)		
8	7	親善水泳大会(4～6年)	7	県吹奏楽コンクール	28	2学期始業式
	20	研究会事前打合せ会	24	学校説明会、部活動1・2年生保護者代表者会		
	28	避難訓練②	30	評議員会②、研究会役員打合せ		
9	2	観察参加実習(～6日)	2	観察・参加教育実習(～9/6)	19	校園研究協議会
	13	市親善陸上大会(6年)	10	電子黒板9台導入	24	入園選考説明会
	19	附属長岡校園研究協議会・オープンスクール	19	教育研究協議会	25	交通安全教室
			21	西関東吹奏楽コンクール	30	園内探検
			21	科学の甲子園ジュニア県大会	30	入門教育実習
10	1	初任者研修②	2	クラスマッチ	2	探検遠足
	4	1学期終業式	9	郡市新人各種大会(～10/10)	15	入園選考(16日)
	7	2学期始業式	17	入門教育実習	18	入門教育実習
	9	マラソン記録会	21	秋期教育実習(～11/1)	21	秋期教育実習(～11月1日)
	15	新・転(編)入学選考検査願書受付開始	25	音楽発表会	31	避難訓練
	21	秋期教育実習(～11/1)	29	初任者研修授業公開		
			30	東京・中央区教委視察受入		
11	6	市親善音楽会(6年)	7	長岡市教育センター講座授業公開(道徳)	1	にこにこ子育てハッピー講座④
	15	新・転(編)入学選考検査願書受付締切	11	オープンスクール・進路説明会	5	個別懇談(～8日)
	16	校内音楽会	12	学校運営協議会	16	さくひんてん
	30	新・転(編)入学選考検査	13	生徒会役員選挙	25	県新採用研修(～26日)
			14	長岡市教育センター講座授業公開(数学)	29	避難訓練
			21	1年生研修旅行(～11/22)		
			21	「いのち」の日高校生とディベート		
			27	研究開発学校指定に伴う運営指導委員会		
		28	生徒会引継総会			
12	3	新・転(編)入学選考検査結果発表	1	ロボコン関東甲信越大会出場	4	保育自由参観、学級懇談会(～6日)
	4	個別懇談(～6日)	3	文部科学省研究開発学校実地調査	11	家族参加日(もちつき)
	19	仲良しフェスティバル	7	令和2年度入学者選考検査	19	2学期終業式
			10	三者面談・保護者面談(～12/13)		
1	9	書き初め大会	10	校園合同避難訓練	9	3学期始業式
	10	校園合同避難訓練②	16	学校保健委員会	10	合同避難訓練
	14	学習参観日	21	3年三者面談(～1/24)	14	かるた大会
	24	高学年スキー教室①(少雪のため中止)	28	中間検討会研究授業(～2/20)	22	そり遠足遠足
	28	中学年スキー教室①(少雪のため中止)			25	新入園児保護者説明会
	30	高学年スキー教室②(少雪のため中止)				
2	3	新・転(編)入学選考二次募集検査	14	部活動保護者会長会、評議員会③、PTA懇親会	3	豆まき大会
	4	3・4年スキー教室②(少雪のため中止)	17	学校運営協議会	13	にこにこ子育てハッピー講座⑤
	5	新・転(編)入学選考二次募集検査結果発表、1・2年そり遠足	21	1・2学年PTA	14	一日入園
	17	一日入学	27	同窓会入会式	18	保育自由参観、学級懇談会(～20日)
	26	学習参観(1～3年)				
	27	学習参観(4・5年)				
3	18	2学期終業式	2	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休業(～3/17)	3	ありがとうの会
	19	120回卒業証書授与式	5	公立高校一般学力検査	17	3学期終業式
			25	卒業証書授与式	18	保育証書授与式

## 2. 特色ある教育活動

### 2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要（2019年度）

	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1) 佐渡市立両津吉井小学校、河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3) 地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1) 附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
5	教育実習 (主専攻、副専攻)	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。
6	研究教育実習	3、4年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	新潟市内の小・中・特別支援学校において、教育活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
8	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定なし	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市内の小・中・特別支援学校において、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定なし	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小・中学校において、教育活動の支援を行う。	
10	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定なし	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小・中学校において、教育活動の支援を行う。	

実施時期、期間	関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課、学童保育施設、NPO法人星空ファクトリー	50名	52名	「教育実践体験研究Ⅰ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1)「教員養成学部フレンドシップ事業」（文部省（当時）、平成9年度開始）に連動する授業科目として設定（「教育実践体験研究」）。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2)平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	118名	134名	「教育実践体験研究Ⅱ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2)平成11～14年度においては、既存の授業科目（教育実践研究関連科目）により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
通年（実習は9月集中）	佐渡市立河崎小学校、佐渡市立両津吉井小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	12名	15名	「教育実践体験研究Ⅳ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）	(1)平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2)新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
9月、5日間	附属学校（4校）		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計226名	「教育実習事前・事後指導」（2単位、学校教員養成課程においては必修）の一環を構成	(1)教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋期、各2週間、総計4週間	附属学校園、協力校園 総計（のべ）119校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計（のべ）703名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
通年	附属学校、協力校	特に設定なし	35名	各教科において多様な形で設定。	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」（3年次対象）および「総合教育実習」（4年次対象）を実施。 (2)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校	117校、218名（派遣要請総数）	86校、140名（新潟青陵大学・新潟県立大学・新潟薬科大学・新潟医療福祉大学からの派遣数は含まない）	「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教員養成課程共通科目、選択、2単位）平成17年度より新設。	(1)平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2)平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成（カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」）。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5)平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環を構成。 (6)平成17年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7)平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。 (8)平成26年度から新潟県立大学からの派遣も開始。 (9)平成29年度から、新潟薬科大学と新潟医療福祉大学からの派遣も開始。 (10)平成30年度から、高等学校への派遣を開始。
通年	見附市教育委員会見附市立小・中・特別支援学校	特に設定なし		特に設定なし	本年度募集なし
通年	三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小・中学校	特に設定なし	4校、6名	特に設定なし	三条市立月岡小学校、第一中学校、第三中学校に対して、学習の個別支援補助、休み時間の遊び、放課後子ども教室、および「さんじょう学びのマルシェ」（一ノ木戸小学校）での活動等に学生を派遣した。
通年	燕市教育委員会学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定なし	4校、5名	特に設定なし	小学校2校（小池小、松長小）と中学校1校（燕中）に対して、学習支援（授業補助、特別な支援が必要な児童・生徒の学習の支援）、行事やイベントの補助等に学生を派遣した。 また、市教育委員会の事業（小・中学校の希望者が参加する英語教室の学習支援）に学生を派遣した。



## 2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で23年目を迎えた。主に、教育学部学校教員養成課程1,2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。

「入門教育実習」が学校への参加を目的としているのに対して、「フレンドシップ実習」では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・子どもふれあいスクール・NPO法人星空ファクトリーなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、子どもふれあいスクール体験コース、自然科学体験コースの計2コース（募集人数40名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も多く見られた。

令和元年度「フレンドシップ実習」コース月活動内容についての一覧

コース名	担当 教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加 学生数
① 子どもふれ あいスクー ル体験コー ス	齋藤暁史 松井賢二	1学期から活動を 開始し、継続的に 学校を訪問する	市教委と連携 し、放課後や 土曜日午前中 に学校施設内 で子どもと遊 び等を通して ふれあう	内野小学校 有明小学校 五十嵐小学校 赤塚小学校 新通小学校 大野小学校 小針小学校 坂井東小学校 鎧郷小学校 浜浦小学校 木山小学校	34名
② 自然科学体 験コース	大庭昌昭 齋藤暁史 宮 菌 衛	個別実習 5月～3月まで18回 全体実習 11月9日(土) 11月23日(土)	星空ファクト リーの協力に よる、子どもた ちが行う実験 への支援	新潟日報 新大前営業所 デッキー401 東区中央公民 館	18名
全体発表会	松井賢二 齋藤暁史 大庭昌昭 宮 菌 衛	12月17日(火) 16:30～18:10	各コースの活 動発表会を学 生主体に実施	教育学部 105講義室	52名

## 2.3 「入門教育実習」——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

### 1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて21年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）が担当している。令和元年度においては、実習協力校12校3園、学部教員30名の受け入れ・指導体制によって実施した。

### 2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は144人、受入者は134人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生10～18名、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ体制の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	17名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	10名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	13名	(G) 学校行事参加・見学コース	11名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	13名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	16名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	18名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	12名

上記の体制により、学生は、4月から10月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭等である。

教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、11月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員が出席し、教員から学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

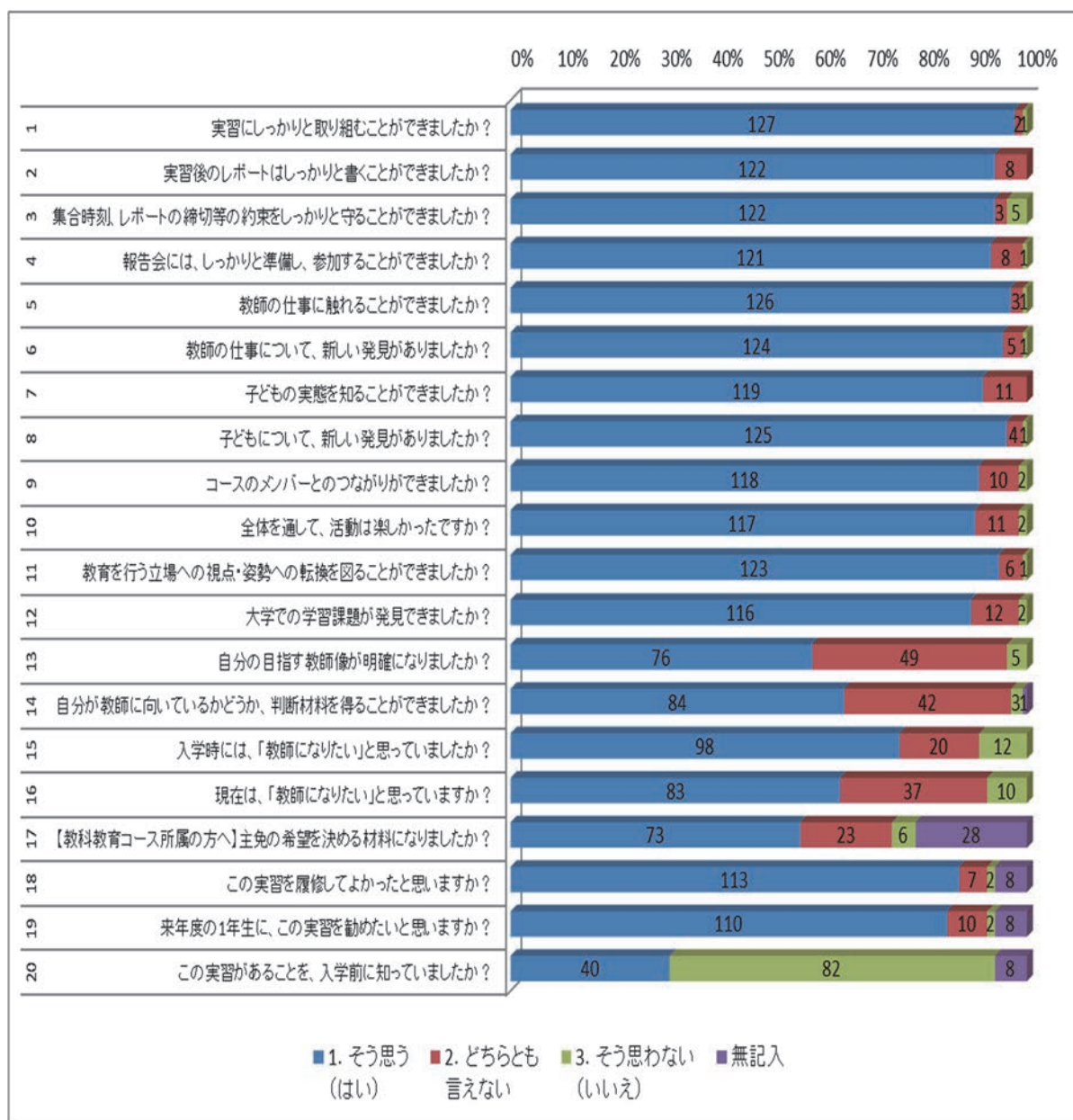


【入門教育実習報告会】

### 3. 学生の動向

令和元年度における学校教員養成課程の入学者は230人，その内，「入門教育実習」説明会への出席者・履修希望者は，前述の通り144名であった。出席者・履修希望者が入学者全体に占める割合を見ると，62.6%（希望率）である。入学者の6割強の学生が意欲的であることを示している。受入学生数134名は，履修希望者の93.0%（受入率）にあたる。

令和元年度においても，報告会の機会を利用し，「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数139名，回収率93.3%）。結果を次に示す（この数値には佐渡実習を含む）。



### 4. おわりに

「入門教育実習」については、『1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第21年次）』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編,2020年3月）に報告している。

## 2.4 「佐渡実習」佐渡で学校と地域を学ぶ～能や鬼太鼓体験を通して～

### 1 本年度の佐渡実習実施に向けて

本年度で7回目を迎える「教育実践体験研究IV（以下、佐渡実習）」は、これまでと同様に、事前講義、佐渡現地実習、実習のまとめと振り返り、報告会という流れで実施した。また、佐渡市地域振興課主催による報告会（至あいぽーと佐渡 2月実施）にも参加した。森下・齊藤の2名体制で行っていたが、8月に齋藤暁史准教授が急逝したため、佐渡実習当日は、教育学部から八坂剛史教授、全学教職支援センターから後藤一雄特任教授、伊藤充特任教授がリレー方式で駆けつけてくれて、無事実施することができた。

### 2 事前講義の概要

#### (1) 第1回4月18日大講義室

入門教育実習と共同で説明会と参加者決定を行った。大変人気があり25名を超える希望者が殺到した。本来は10名定員であったが、急遽、宿と車の限度一杯の15名に増員して行うことになり、男子8名、7名の参加が許可された。

#### (2) 第2回6月29日101講義室

NPO法人佐渡芸能伝承機構を主宰されている松田祐樹理事長を講師としてお招きし、佐渡の祭りについて講義を受けた。松田氏は鼓童文化財団理事もされており、佐渡の祭りや行政に精通されており、本活動も色々な面で支えてもらっている。なお、

#### (3) 第3回9月9日102講義室

出発直前の打ち合わせを行った。服装や持ち物、行程等詳細に説明を行った。実習校から事前にもらった資料にも目を通してもらった。

### 3 佐渡現地での実習概要

#### (1) 9月11日（水）

新潟港佐渡汽船乗り場に集合で、15時5分に両津港着のフェリーに全員で乗船した。今年から小学校2校は完全に同時並行して実施されたので、河崎小学校班は大学公用車で、両津吉井小学校班はレンタカーでそれぞれの学校に向かった。到着後オリエンテーションが行われた。両津吉井小学校は小田俊裕教頭、河崎小学校では椎一夫教頭によって「佐渡における学校と地域とのかかわりについて」、「遠足における危機管理」についての講演と指導がなされた。

終了後は宿泊会場のグリーンヴィレッジパティオハウスにて夕食をとり、その後二班に分かれ城腰公民館での花笠踊り稽古見学と野崎地区（屋外）での刀刀とうとうの稽古見学を行った。



#### (2) 9月12日（木）

この日は両校とも授業見学を主体とした活動であった。両校とも授業参観、給食体験、5、6年生と交流授業（キャリア教育）であった。それに加えて、両津吉井小学校は宝生流 齋藤美千枝師範によるふるさと学「能」参観、各地区の伝承者によるふるさと学「鬼太鼓」参観があった。夕食後は二班を入れ替えて城腰公民館での花笠踊り稽古見学と野崎地区（屋外）での刀刀とうとうの稽古見学を行った。



(3) 9月13日(金)

この日は河崎小学校がドンデン山、両津吉井小学校が金北山登山遠足であった。たいへん天候にも恵まれた。学生諸君は遠足の引率補助をしっかりと行ってくれた。そのためか、両津吉井小学校では3年前にも今回と同じコースを歩いた際には何人かが完歩できずに車で移動することがあったそうだが、今回はほぼ全員が完歩(児童1名が残り僅かのところで車移動)だったようだ。



(4) 9月14日(土)

この日は松田理事長による島内見学であった。二ツ亀散策や大膳神社能舞台の見学、矢島・経島のたらい船体験などの後、夜は岩首地区祭礼の前夜祭で、鼓童研修生による演奏を鑑賞することができた。



(5) 9月15日(日)

河崎小学校区にある久知八幡宮において秋季例大祭が催された。河崎小学校の児童や卒業生が演じる花笠踊りや刀刀を鑑賞した。この年から両津吉井小学校の児童も花笠踊りに参加していたようである。また早朝から夕方まで下久知町内を門付けして回る鬼太鼓に参加した。今年から地元で簡単な獅子を用意して下さり、学生が鬼太鼓に合わせて華麗に獅子を舞った。また、男子学生は久知八幡宮前で行われる下久知鬼太鼓の「あばれ太鼓」や神輿渡御に参加した。その後全員無事に帰途についた。

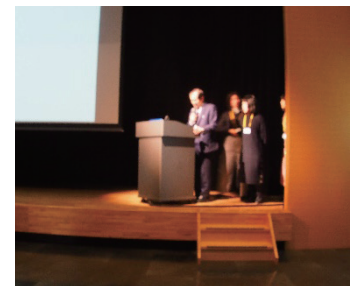


#### 4 佐渡実習報告会

11月27日、入門教育実習と合同で実習成果の発表会を行った。それに先だって、実習でのレポート提出と、当日の発表会のパワーポイントや原稿作成等の作業を行った。昨年同様、大変有意義な発表会になった。

#### 5 大学と地域が連携した地域づくり 活動報告会参加

学生代表の4名が再度佐渡に渡り、大学と地域が連携した地域づくり活動報告会に参加した。2月1日(土)にあいぽーと佐渡でポスター発表の準備、2日(日)はポスター発表と午後からの全体発表に臨んだ。夕方からは交流会に参加し、佐渡で活動している多くの大学と情報交換や交流を行った。



謝辞 この活動では佐渡市から活動助成を受けました。お礼申し上げます。

## 2.5 研究教育実習

### —教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センターに教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)が設置され(ただし平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室に移され)、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究が行われて来た。

「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムである。本開発研究の目的は、

(1) 多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、

(2) 附属学校との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築すること、

であり、「学習支援ボランティア」とともに、本学部の「教育実践カリキュラム」において、4年次段階における重要な構成要素として位置づけられて来ている。

今日学校教育は、普遍的であるべき教育の根幹を踏まえながら、グローバル化の進展など社会の加速度的な変化に対応していくことが求められている。そのような現状であることを考えるとき、研究教育実習は、教育学部と大学院にとって、こうした要請に答えていくための先進的で実践的な柱の一つをなすものと位置づけることができる。これからの学校教育を担って行く立場にある、教師を目指す学生たちには、多様なチャレンジに果敢に立ち向かっていくことが期待されていて、研究教育実習のカリキュラムは、こうした要請に答えるものだと言える。

令和1年度に進められた取り組みは、次の各研究室によるものである。6名の教員と計37名の学生が参加した。

学部担当教員(専門分野)	参加学生数
森下 修治(音楽科教育学)	13名
高木 幸子(家庭科教育学)	3名
土佐 幸子(理科教育学)	11名
佐藤 哲夫(美術科教育学)	2名
柳沼 宏寿(美術科教育学)	4名
垣水 修(数学科教育学)	4名
計	37名

また令和1年度においては、12月20日(金)に「研究教育実習報告会」を、フレンドシップ事業の一環としておこなった。報告会は、研究教育実習の実践の成果と課題が、実践者から報告され、教育学部全学年学生、養護教諭特別科学生、教職大学院学生を参加対象者としている。今年度は、理科教育専修と音楽教育専修の実践者から実践発表が行われた。12名の学生(3年生3名、4年生9名)と6名の教員が参加し、情報交換と討論が活発に行われた。

## 2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

### — 学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として3年次生・4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始17年目にあたる2019年度において、学校からの派遣要請総数は122校、225人であった。新潟大学から派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、養護教諭特別別科、大学院教育学研究科、人文学部に在籍する学生・大学院生、総計140名である。今年度の派遣先（学校数、派遣人数）は、小学校（54校、89名）、中学校（28校、46名）、幼稚園（2園、3名）、特別支援学校（2校、2名）、高等学校（該当なし）である。学校数、派遣人数については、平成30年度（86校、124名）から、学校数は同数、派遣人数は16名増加した。なお、平成18年度から新潟青陵大学、平成26年度から新潟県立大学、平成29年度から新潟薬科大学と新潟医療福祉大学がこの事業に参加している。



【小学校での授業補助の様子】

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、8月開催予定の中間報告・交流会は都合により中止となったが、12月には、「2019年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それに基づく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、新潟学生・院生117名、新潟青陵大学13名、新潟医療福祉大学3名、新潟薬科大学3名、派遣校教員42名、大学教員10名、新潟市教育委員会1名、総計189名）。なお、参加者総数は昨年度より46名増えている。現場教員の参加者が大幅に増えたことを付記したい。

なお、平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。2019年度においては、129名の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第17年次）』を作成した。

なお、関連事業として、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、三条市立学校には3校3名＋三条市教育委員会事業支援3名、燕市立学校には3校と燕市教育委員会事業に2名の学生を派遣した。

## 2.7 教育実習

### 1. 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次の入門教育実習、2年次の観察・参加実習、3年次の教育実習、4年次の副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

### 2. 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

#### (1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、特別支援学校の主・副免学生に1コースを開講し、指導案作成演習と模擬授業を実施している。

#### (2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。

#### (3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

#### (4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。



## 2.8 介護等体験

### 1 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(平成9年法律第90号)が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。体験内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

### 2 事前指導及びガイダンス

体験に先立ち、次の次第による事前指導及びガイダンスを行った。

#### ○ 事前指導

月 日 平成31年4月3日(水)

対 象 平成31(2019)年度に介護等体験を希望する者(主として2年生)

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施に当たって

全学教職支援センター教職課程支援部門 部門長

(3) 介護等体験受入施設、学校における事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会 会長

「特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校 校長

(4) 介護等体験に係る諸連絡

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

#### ○ ガイダンス

月 日 令和元年11月20日(水)

対 象 令和2年度に介護等体験を希望する者(主として1年生)

(1) 介護等体験実施の概要について

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

### 3 体験状況

令和元年度は、学校教員養成課程205名、大学院1名の計206名が申し込みを行い、表1及び表2のとおり体験を行った。

### 4 効果と今後の課題

社会福祉施設や特別支援学校からは、体験状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により延べ15名の学生が体験の取消を行い、また、学生の確認・準備不足による期間変更が多数あるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表 1】令和元年度介護等体験実施施設地域一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	58	155	
長岡市	7	8	
三条市	5	5	
柏崎市	4	4	
新発田市	5	7	
加茂市	1	2	
見附市	1	1	
燕市	5	6	
糸魚川市	1	1	
五泉市	1	1	
上越市	2	3	
佐渡市	4	5	
南魚沼市	1	1	
胎内市	1	1	
阿賀町	1	1	
村上市	1	1	
合 計	98	202	

(取り消し 4名)

【表 2】令和元年度特別支援学校体験一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	5月9日 ～ 5月10日	22
	2	5月14日 ～ 5月15日	24
	3	5月20日 ～ 5月21日	22
	4	5月30日 ～ 5月31日	20
	5	6月19日 ～ 6月20日	17
	6	7月17日 ～ 7月18日	16
	7	9月9日 ～ 9月10日	19
	8	10月9日 ～ 10月10日	20
	9	12月4日 ～ 12月5日	16
	10	1月22日 ～ 1月23日	19
合 計			195

(取り消し 11名)

## 2.9 各課程の特色ある教育活動

### 【学校教員養成課程（国語教育）】

特色ある活動として、年に2回の学会を開催し、機関誌『新大国語』を刊行している。詳細は下記の通り。

#### 1. 新潟大学教育学部国語国文学会

##### (1) 新潟大学教育学部国語国文学会令和元年度夏期研究会

日時： 令和元年7月27日（土）14：00～17：00

場所： 新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容： シンポジウム「中高一貫教育における国語授業の現状と課題」

シンポジスト 石井 メイ（村上中等教育学校）

シンポジスト 白木 妙子（村上中等教育学校）

シンポジスト 駒野 美咲（新潟第一中学校・新潟第一高等学校）

シンポジスト 五島 拓（新潟第一中学校・新潟第一高等学校）

コーディネーター 磯貝 淳一（新潟大学人文学部）

##### (2) 新潟大学教育学部国語国文学会令和元年度研究大会

日時： 令和2年2月8日（土）14：00～17：15

場所： 新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容： ① 研究発表

「『大鏡』作者の位置 —作品構造における和歌の配置から—」

元・新潟市立中学校教諭 五十嵐正子

「古人と対話する和歌のオマージュ —国語の授業における古典との豊かな邂逅—」

福島大学 佐藤 佐敏

② 講演「現代日本語研究者が読む鮎川哲也」

新潟大学 岡田 祥平

③ 総会

##### (3) 機関誌『新大国語』の編集・刊行

なし。

## 【学校教員養成課程（理科教育）】

### 1. 化学実験公開講座の開催（2019年8月7日（水））

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学-21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生4名が「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ（全14テーマ）の講座を企画した。

### 2. 見附市教育委員会の「みつけこども大学」事業での出前授業実施（2019年12月11日）

見附市立見附小学校の6年生児童3クラス総勢90名を対象に、「pHメーターを使ってみよう」と題した出前授業を行った。pHとはなにか、pHと酸性・アルカリ性との関係について解説し、その後、各班に分かれて身のまわりの水溶液のpHを測定して酸性・アルカリ性を判別したり、ブルーベリー溶液やBTB溶液などに酸やアルカリを加えて溶液が変色したときのpHを測定する実験を行った。

## 【音楽科教育専修】

### 佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で11年目となる佐渡市豊岡小田原神社例祭（鬼太鼓）に森下ゼミ学生全員が参加した。2019年3月26日から4月2日まで佐渡市定住体験住宅（とよおか住宅）で寝食をともにして祭りの稽古に励んだ。豊岡の祭りは3月31日に行われ、次の日4月1日も杉野浦地区の祭りのお手伝いをした。



### 新潟市立内野小学校訪問演奏

音楽科1年生～3年生全員と4年生の一部が参加して、今年も内野小学校に訪問演奏を行った。7月4日と12日は授業の時間を頂戴して、3年生児童に学生が事前授業を行った。7月16日にリハーサルを行った後、翌17日は同校で継続して行われている「ミュージック・タイム」で学生と3年生児童が演じた。テーマは音楽づくりで、国語、図工、体育、給食、掃除の5班に分かれ、それぞれのテーマに沿った音楽づくり活動を行った。



### 附属特別支援学校アフタースクール

昨年に引き続きアフタースクール（中高等部 課外授業）音楽の活動を行った。

昨年同様西アフリカの音楽の太鼓（djembe）と踊りを月に1～3回稽古を重ねてきた。11月29日の研究会、1月25日のすなやま祭で日頃の成果を披露した。すなやま祭のエンディングには恒例となっている「WAになっておどろう」を学生のバンド演奏で全員斉唱した。



## 【音楽表現コース】

新潟市西区役所との連携により，大学と地域連携プロジェクト「音届2019～未来へ奏でる魂の音～」を「卒業研究」の一環として，音楽マネジメントの実習も兼ねて行った。

このプロジェクトは，新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので，2019

年度は9名の学生スタッフ（うち4名は工学部生）の発案・運営による2企画3公演が行われた。これらは，西区と世界を繋げるコンセプトの下に継続されてきたコンサート企画の最後となるもので，学生たちの手によって運営され，地域の方々延べ450人にご来場いただいた。

今年度は新潟市西区の出身で国際的な活躍を続けるチェリスト・横坂源に焦点を当て，チェロのために書かれた親しみやすい小品から本格的な作品まで，トークやデモンストレーションを交えたステージを展開した（ピアノ：田中幸治教授）。また「西区アートフェスティバル+音届」の中で，ゼロ歳から入場可能な「子どものためのコンサート」を2公演行った。

詳細は，横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に掲載の全体広報誌や各企画のチラシ，プログラム等を参照のこと。

## 【学校教員養成課程（保健体育）及び健康スポーツ科学課程】

アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports for P.E.A.C.E.～

本プロジェクトは、平成22年度より3年間、新潟大学GPに採択され始まった取り組みであり、今年度で10年目を迎えた。新潟という地域性を活かし、アジアの大学間（韓国：漢陽大学、中国：哈爾濱商業大学、日本：新潟大学）でのスポーツ活動に関わる交流を深めている。

学生は、それぞれの国の文化的背景も含めたスポーツ関連情報の学習はもとより、そうした交流イベントを自ら企画・運営することを通して実践的な学びを深めることを目的に活動を継続している。

### PEACEプロジェクトのビジョン



また、競技力向上に関しては、各種目の指導法やフィジカル面、メンタル面などの科学的側面の情報交換も行い、オリンピックやユニバーシアード等が開催された国々から大会運営などの現状や地域社会への波及効果等の学習も目指している。さらに、スポーツという共通の文化を通して、各国の文化や言語の違いといった障害を超えた実践的なコミュニケーションスキルの向上を獲得することも期待している。本取組の概要は次頁図のとおりで、対象学生は主に教育学部保健体育・スポーツ科学講座の学部生・大学院生（専門課程）である。3大学間での交流では、主に「スポーツ交流イベント」と「アカデミックイベント」の2つのイベントを実施している。

本プロジェクトも筋目の10年を迎え、3大学での交流活動が確実に定着し、交流のプラットフォームが出来上がったが、新潟大学教育学部では健康スポーツ科学課程の募集停止を決定し、本活動の中心となるべき学生が少なくなっている。せっかく確立したこのプラットフォームをどのように活用・発展させられるのか大きな課題である。

＜令和元年度のアジア大学スポーツ交流プロジェクト（P.E.A.C.E.）の概要＞

日 程；令和元年12月7日（土）～12月9日（月）

場 所；新潟大学教育学部講義棟，第2体育館，第3体育館ほか

参加者；新潟大（教員8名，学生13名）

漢陽大学（教員2名，学生8名），哈爾濱商業大学（教員3名，学生3名）

主要内容；（交流のスケジュール）

◎12月7日（土）代表者ミーティング，歓迎会

◎12月8日（日）新潟市内観光，フットサル体験

◎12月9日（月）ラート体験，学部長面談，学術交流，交流会





## 【2019新大なんでもスポーツプロジェクト】

14年目を迎えた「新大なんでもスポーツプロジェクト」は、今年度も保健体育・スポーツ科学講座の大学院生、学部生、そして教員が力を合わせて実施した。今回は、6コースを企画し、地域の人々とスポーツを通じた交流を行った（台風等による荒天のため、1コースは中止）。さらに、地域の方々を対象に学生がスポーツを指導することで、指導者としての資質を高める大変意義のある機会となった。

以下は、今回の6つのプロジェクトの名称と参加者数を示した表である。

コース名称	募集人数	回数	開催日	参加者人数
A 安全・安心のためのスポーツ環境づくり —スポーツ指導におけるリスクマネジメント	30名	1	7/22 (月)	40名
B フットサルで学ぶサッカー攻撃の戦術	20名程度	1	9/1 (日)	4名
C 小・中学生のための卓球教室	各8組	3	9/21 (土) 9/22 (日) 9/23 (月・祝)	105名
D 親子の自然体験教室 —カヌーを使用した自然体験—	各8組	2	10/12 (土) 10/19 (土)	荒天で中止
E 放課後の運動教室	30名程度	3	10/15 (火) 10/22 (火) 10/29 (火)	12名
D スキースクール	約30名	1	1/12 (土) ~1/14 (月)	18名

計 169名



## 2.10 中・高校生等の大学見学

本学部では入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行い、本学部の特色や魅力を発信している。

担当教員はカリキュラムや就職状況等を説明した後、専門性を生かした模擬授業を行い、進学希望者への学部理解に努めている。

No	実施日	学校名	参加者	担当教員
1	5月9日	山梨学院高等学校	2年生 7名	有川 宏幸 (広報委員長)
2	6月28日	富山県立魚津高等学校	保護者 10名	佐藤 亮一 (広報委員)
3	7月1日	新潟県立巻高等学校	保護者 8名	有川 宏幸 (広報委員長)
4	7月11日	福島成蹊高等学校	1年生 32名	雲尾 周 (広報委員)
5	7月17日	新潟県立小千谷高等学校	1年生 58名	岡田 祥平 (広報副委員長)
6	7月19日	新潟県立新潟江南高等学校	1年生 50名	田中 誠二 (広報委員)
7	7月25日	新潟県立新井高等学校	1年生 30名	清水 文博 (広報委員)
8	7月26日	新潟県立新潟南高等学校	1年生	岡田 祥平 (広報副委員長) 田中 誠二 (広報委員)
9	9月11日	新潟県立燕中等教育学校	保護者 41名	杉村 桃子 (広報委員)
10	9月12日	福島県立郡山高等学校	1年生 62名	有川 宏幸 (広報委員長)
11	9月13日	福島県立橘高等学校	保護者 8名	清水 文博 (広報委員)
12	9月27日	長野県長野高等学校	1年生 31名	佐藤 亮一 (広報委員)
13	10月2日	福島県立福島東高等学校	保護者 17名	田中 誠二 (広報委員)
14	10月8日	福島県立福島東高等学校	2年生 29名	岡野 勉 (広報委員)
15	10月11日	福島県立福島高等学校	保護者	清水 文博 (広報委員)
16	10月16日	新潟県立三条高等学校	保護者 19名	佐藤 亮一 (広報委員)
17	10月23日	新潟産業大学附属高等学校	1年生 11名	岡田 祥平 (広報副委員長)
18	10月24日	新潟県立直江津中等教育学校	保護者 4名	有川 宏幸 (広報委員長)

### 【附属学校等からの見学】

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月10日	附属長岡小学校	小学校5年生67名 及び保護者67名	清水 文博 (広報委員)
2	9月24日	附属長岡中学校	中学校1年生117名	張間 忠人 (広報委員) 垣水 修

### 3. 就職支援

#### 3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、次のとおり「教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの田中 賢一客員教授，山際 貴子特任教授，遠藤 英和特任教授，村川 孝子特任教授，石坂 学特任教授，竹内 公英特任教授，後藤 一雄特任教授，佐藤 昇誠特任教授である。

##### 1 目的

講座の受講をとおして、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

##### 2 実施内容

###### (1) 応用コース

対象者：学部4年生，大学院生，養護教諭特別別科生，新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55），場所：204講義室他

	開催日	講義内容
1	4月11日（木）	応用コースガイダンス&出願書類の書き方
2	4月18日（木）	教職教養検査問題対策と基礎演習
3	4月25日（木）	新潟県／新潟市 教員採用検査説明会
4	5月9日（木）	模擬授業のポイントと実際
5	5月16日（木）	個人面接と場面指導のポイントと実際
6	5月23日（木）	集団面接・集団討論のポイントと実際
7	6月20日（木）	学校種別演習Ⅰ
8	6月27日（木）	学校種別演習Ⅱ
9	7月4日（木）	学校種別演習Ⅲ
10	7月11日（木）	二次検査対策 ニーズ別演習Ⅰ
11	7月18日（木）	二次検査対策 ニーズ別演習Ⅱ
12	7月25日（木）	二次検査対策 ニーズ別演習Ⅲ&私立学校等希望者への指導助言
13	10月31日（木）	教壇に立つ心構え（臨採希望者も含む）
14	11月6日（水）	学校教育を支える多様な職種と業務

(2) 基礎コース

対象者 : 学部3年生, 大学院1年生, 新潟大学の卒業生

開講時間: 5限(16:25~17:55), 場所: 204講義室

	開催日	講義内容
1	10月10日(木)	特別講座《基礎コース》 ガイダンスと先輩からのアドバイス~教採への対策と準備~
2	10月17日(木)	学習指導上の課題とその解決に向けて ~授業の配慮点と学校現場の授業の実際~
3	11月21日(木)	学習指導要領のポイント
4	11月28日(木)	小論文の書き方とポイント(その1) ~学習指導&学力向上を中心に~
5	12月5日(木)	小論文の書き方とポイント(その2) ~生徒指導上の課題と対応を中心に~
6	12月12日(木)	小論文の書き方とポイント(その3) ~道徳教育の充実を目指して~
7	12月19日(木)	小論文の書き方とポイント(その4) ~危機管理を中心に~
8	1月9日(木)	教育行政が期待する教師像 (新潟県教育委員会・新潟市教育委員会)
9	1月16日(木)	小論文の書き方と目指す教師像 ~自分の教育観・指導観を構築する~
10	1月23日(木)	自己PR&願書の書き方と教育関連法規

## 3.2 教員採用試験対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

### 1 教員採用試験対策支援プログラム（R2.4採用者向け）

#### (1) 小論文指導

令和元年6月20日（木）、足立准教授指導のもと、「小論文指導」を行った。参加者は38人。参加者は小論文の論題の受け止め方、主張の組み立て方についてアドバイスを受けた。

#### (2) 教採対策講義（特別支援教育）

令和元年6月21日（金）長澤教授による、教採対策講義「特別支援教育の現状と今後」が行われ、4人の参加があった。

#### (3) 教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学

令和元年7月30日（火）、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は43人。

実際の教員採用検査と同じ進捗で授業を実施した後、質疑応答を行った。参加者からは大きな刺激となった様子がかがえた。

#### (4) 場面指導

令和元年8月1日（木）、「場面指導」対策講義を行った。参加者は56人。

全学教職支援センター特任教授、教職指導の齋藤准教授が面接官役となり、学生代表者と実際の教員採用試験を想定した場面指導を行った。参加者は、二次試験に向け意欲を高めた。

#### (5) 模擬授業

令和元年8月5日（月）、6日（火）、7日（水）の3日間、実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を行った。参加者は延べ30人。齋藤准教授を中心に、多くの教員の協力を得て実施した。

授業実施者が、実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し、参加者との質疑討論の後、教員等からアドバイスを受けた。

### 【実技試験対策】

#### (6) 理科実技試験対策

令和元年6月18日（火）、19日（水）、21日（金）、教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策（生物・物理・化学・地学）」を行った。参加者は延べ5人。理科教員から、実技試験を想定した実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。

#### (7) 音楽実技試験対策

受講者の希望日時に、教員採用検査対策支援プログラムとして「音楽実技試験対策」を行った。参加者は延べ5人。音楽科教員から、小学校、中学校、高等学校等の音楽実技について具体的なアドバイスを受けた。

#### (8) 体育実技試験対策

令和元年6月から7月において、教員採用検査対策支援プログラムとして「体育実技試験対策」を行った。参加者は2人。体育科教員から、水泳実技について具体的なアドバイスを受けた。

また、体育実技の第二次試験対策として、8月13日（火）、14日（水）、15日（木）、16日（金）の4日間、第2体育館の一部を開放し、マット運動等の体育実技の練習場所として提供した。

## 2 教員採用試験対策支援プログラム（R3.4採用者向け）

### (1) 教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

令和2年2月12日（水）、時事通信出版局から講師を招き、教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は54人（他学部等学生含む）。

今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析、最新教育時事の傾向と対策について、講演をいただいた。

## 3.3 3年次生向けキャリア支援ガイダンス

3年次教育実習（春期実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

### 1 3年次生向けキャリア支援ガイダンス

令和元年7月19日（金）に、3年次教育実習（春期実習）を終えた学生向けに、教育実習という体験を踏まえ、社会で必要とされる力を知り、自分の強みや弱みを整理し、今後のキャリアビジョンを考えことを目的に、新潟大学キャリアセンター及び（株）リクルートキャリアから講師を招きガイダンスを実施した。

## 3.4 企業・公務員希望者向け就職ガイダンス

本学部独自の企業・公務員希望者向け就職ガイダンスを下記のとおり開催した。

### 1 企業・公務員希望者向け就職ガイダンス

令和元年11月11日（月）、企業就職・公務員を希望する3年次生を対象に就職対策ガイダンスを開催した。

ガイダンスでは、内定者2人による具体的な就活体験談とキャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表は、民間企業就職を果たした内定者及び公務員就職を果たした内定者から、それぞれ就活・受験体験発表があった。

キャリアコンサルタントからは、進路・就職に向けてこれから準備することのアドバイスがあり、その後、質疑応答が行われた。

### 3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

#### 1 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」(「教職理解特別講座応用コース」第13回)

日時：令和元年10月31日(木) 5限(16:25～17:55)

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。

#### 2 令和2年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会等に送付し採用を依頼した。

### 3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

#### 1 教採合格ガイダンス(4年次生向け)

平成31年4月24日(水)、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項(願書)の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。

ガイダンスは、(1) 齋藤准教授から、教員採用検査出願にあたっての注意点や検討事項などの説明(2) 全学教職支援センター所属の石坂特任教授から、自己PRカード記入上の留意点の説明(3) 小学校で正規教員として勤務している卒業生による講演などが行われた。

#### 2 教員採用検査受験予定者向けガイダンス(3年次生向け)

令和元年10月7日(月)、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。

ガイダンスでは、(1) 全学教職支援センター所属の特任教授から「教員採用検査対策講座等の内容・日程」についての説明、(2) 教育学部卒業生で県内の小・中学校教員として活躍している先輩2人から教員を目指すにあたっての体験談発表、(3) 遠藤特任教授から教員採用検査に向けての心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。

### 3.7 教職サポートルーム

教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置している。

教職を目指す学生が自由に利用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースがあり、教採試験間際は利用度が多い。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制が整っていて、学生が気軽に相談できる環境となっている。



教職サポートルーム (101 講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌



## 4. 学部FD

今年度は、学外から金沢大学人間社会学域教授に講演をお願いし、それらを含めて全3回の学部FDを実施した。

No	実施月日	会場	演題	講師
1	4月18日(木) 13:00-14:30	教育学部 大会議室	金沢大学はいかにして、教員採用正規採用率全国一位を達成できたか	金沢大学人間社会学域 教授
2	9月12日(木) 13:30-14:30	教育学部 大会議室	令和2(2020)科学研究費助成事業公募の主なポイントと科研費改革による変更点	新潟大学研究企画室URA
3	11月14日(木) 13:30-14:30	教育学部 大会議室	教育学部学生の進路(就職)状況及びキャリアセンターへの相談状況・相談内容について	新潟大学キャリアセンター キャリアコンサルタント

## 5. 地域貢献

### 5.1 令和元年度中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」

#### 1. 令和元年度中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である中堅教諭等資質向上研修「教科指導研修」（以下「中堅研」と称する）は、令和元年度で16年目を迎えた。

##### (1) 日程

令和元年度の「中堅研」の活動日程は下表のとおりである。

日 程	研 修 内 容	場 所 等
6月27日	センター・学部の事前打合せ会	教育学部
7月30日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月20日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
9月～11月	代表者授業研究会等	受講者の学校
10月～12月	「研修のまとめ」	センター・学部・学校

6月の事前打合せ会で、新潟市立総合教育センター（新潟市教育委員会を含む）指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、2日間に渡って実施され、各受講者の授業力の課題の検討、授業改善計画の検討、学習指導案の検討、模擬授業等に取り組んだ。これらを踏まえて、9月以降に、グループごとの代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から12月までの期間に、グループごとに「研修のまとめ」を実施した。

夏季休業中の「教科指導研修」は、

##### (2) 受講者・指導者・グループ編制

教科ごとの受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。

教科・領域等	受講者数	グループ数	指導主事数	大学教員数
国 語	10	3	3	3
社 会	7	2	2	2
算数・数学	18	4	4	4
理 科	10	3	3	4
音 楽	1	1	1	1
図画工作・美術	0	0	0	0
生活・総合	3	1	1	1
体育・保健体育	13	4	4	3
家庭・技術家庭	3	1	1	2
外国語	10	3	3	3
道 徳	3	1	1	1
特別活動	3	1	1	1
特別支援教育	9	2	2	2
合 計	90	26	26	27

#### 2. 学部「養成」と現職教員「研修」の連携等

教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。学部生や大学院生が代表者授業等に参加し、共に授業について学ぶ機会としても位置付けられてきている。

## 5.2 教育委員会との連携事業

### ○ 教育委員会との連携協定

#### ・新潟県教育委員会との連携推進協議会

平成23年4月に締結した連携協定にもとづき、令和2年2月13日、新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会を開催した。

新潟大学教育学部が抱える当面の課題への取り組み状況、教員採用の状況と見通し等について率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

#### ・新潟市教育委員会との教育懇談会

令和2年2月10日、新潟市教育委員会と新潟大学教育学部との教育懇談会を開催した。

新潟大学教育学部が抱える当面の課題への取り組み状況、教員採用の状況と見通し等について率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

#### ・見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、見附市内の全ての小・中・特別支援学校13校へ出前授業「みつけこども大学」として講師を延べ13名派遣した。

#### ・三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、市内の小・中学校4校へ「学習支援ボランティア」を6名派遣した。

また、令和元年10月17日、三条市教育委員会と連携推進協議会を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

#### ・燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」の募集を行い、市内の小・中学校4校に対して、学習支援等として5名を派遣した。

## 5.3 委員等就任状況

### 《主な委員就任状況》

#### 新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『指導改善研修に係る審査検討委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『県立歴史博物館評価委員』
- 『新潟県労働委員会公益委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『新潟県教科用図書選定審議会委員』
- 『新潟県いじめ防止対策等に関する委員会委員』
- 『いじめ対策等検討会議委員』
- 『新潟県いじめ等に関する調査委員会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会』
- 『学校評議員』
- 『新潟テクノスクール修了生の自死事案に関する第三者委員会委員』
- 『新潟県立長岡高等学校スパーサイエンススクール運営指導委員会委員』
- 『新潟県健康づくり推進懇談会委員』
- 『新潟県文化財保存活用大綱策定委員』

#### 新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『新潟市就学支援委員会委員』
- 『新潟市環境審議会委員』
- 『新潟市文化創造推進委員会委員』
- 『新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会委員』
- 『新潟市自殺予防対策協議会委員』
- 『教育委員会表彰選考委員会委員』
- 『にいがた市民大学運営委員』
- 『新潟市都市計画審議委員』
- 『新潟市精神医療審査会委員』

『教科用図書審議委員』

『新潟市地球温暖化対策実行計画策定委員会委員』

『新潟市民芸術文化会館劇場専属舞踊団検証会議委員』

#### 新潟県小学校図書館協議会

『読書感想文コンクール審査委員長』

#### 長岡市教育センター

『教育研究論文審査員』

#### 三条市教育委員会

『三条市教育事務点検評価委員会委員』

#### 佐渡市

『佐渡市いじめ問題調査委員会委員問題調査委員会委員』

#### 佐渡市ジオパーク推進協議会

『推進協議会委員、運営委員』

#### 佐渡市教育委員会

『佐渡市教育振興基本計画策定会議委員』

#### 新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

#### 見附市教育委員会

『学校評価アドバイザー』

『就学支援委員』

#### 聖籠町教育委員会

『聖籠町いじめ防止等対策委員会委員』

#### 出雲崎町教育委員会

『出雲崎町教育支援委員会委員』

#### 国土交通省北陸地方整備局

『河川水辺の国勢調査アドバイザー』

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団  
『理事』

公益財団法人リバーフロント研究所  
『河川・海岸環境等検討委員会委員』

全国GIS技術研究会  
『「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」委員』

地震予知総合研究振興会  
『津波の地質痕跡評価ワーキンググループ委員』

独立行政法人大学入試センター  
『問題作成部会委員』

新潟市西区自治協議会  
『新潟市西区自治協議会』

光村図書出版株式会社  
『編集委員』

新潟県国際交流協会  
『専任アドバイザー』

北陸地方整備局 羽越河川国道事務所  
『荒川たんぼの保全・創出検討会委員』

特定非営利法人 日本国際湿地保全連合  
『水生植物調査及び水生植物分科会委員』

国立教育政策研究所  
『プロジェクト研究「教員の配置等に関する教育政策の実証に関する研究」に係る委員』

新潟県・新潟市小学校教育研究会  
『学習指導改善調査研究事業アドバイザー』

**文部科学省高等教育局**

『大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員』

**新潟ろうきん福祉財団**

『選考委員』

**上越教育大学**

『上越教育大学CST育成事業実施委員会委員』

**新潟日報社**

『審査員』

**新潟県病院局**

『県立十日町看護専門学校（仮称）入学試験委員』

『県立病院附属看護専門学校入学試験委員』

**独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構**

『国立大学教育研究評価委員会専門委員』

**独立行政法人 日本学術振興会**

『科学研究費委員会専門員(2段階書面審査委員)』

**教員養成評価機構**

『評価委員会委員』

**新潟市立総合教育センター**

『マイスター認定審査委員』

**日本教職大学院協会**

『授業改善・FD委員会委員』

## 6. 国際交流

### 6.1 学術交流（研究者派遣）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	清水 研作	中国	学術・文化交流	2019/11/4	2019/11/8	基幹的経費
教授	牛山 幸彦	イタリア	第30回ユニバーシアード競技会参加のため	2019/6/28	2019/7/13	
准教授	雲尾 周	中国	中国教育部全国中小学校園安全防犯研究会への参加	2019/5/23	2019/5/27	基幹的経費
教授	北村 繁	エルサルバドル共和国	調査研究のため	2019/8/21	2019/9/13	基幹的経費
教授	北村 繁	グアテマラ	JICAグアテマラ短期専門家派遣	2019/11/17	2019/12/2	
教授	小林 日出至郎	ギリシャ	ホメロスの運動文化に関する研究資料調査	2019/9/14	2019/9/25	科研費(基盤C)
教授	丹治 嘉彦	トルコ	イスタンブールビエンナーレの調査	2019/10/27	2019/11/1	科研費(基盤B)分担 代表: 椎原伸博
准教授	中島 伸子	中国	国際共同教育研究会および国際プログラムに係る研究打合せ	2019/6/14	2019/6/17	科研費(基盤C)分担 代表: 相庭和彦
教授	向山 恭一	中国	国際共同教育研究会および国際プログラムに係る研究打合せ	2019/6/14	2019/6/17	基幹的経費
特任教授	大橋 英喜	中国	国際共同教育研究会および国際プログラムに係る研究打合せ	2019/6/14	2019/6/20	
准教授	雲尾 周	中国	国際共同教育研究会および国際プログラムに係る研究打合せ	2019/6/15	2019/6/20	科研費(基盤C)分担 宮菌衛
教授	相庭 和彦	中国	国際共同研究会および国際プログラムに係る研究打ち合わせ	2019/6/14	2019/6/20	科研費(基盤C)分担 宮菌衛
	下永田 修二	南アフリカ共和国	WORLD CONFERENCE ON DROWING PREVENTION 2019 への出席	2019/10/5	2019/10/11	科研費(基盤C)分担 大庭昌昭
准教授	渋谷 徹	中国	国際共同教育研究会および国際プログラムに係る研究打合せ	2019/6/14	2019/6/20	
教授	牛山 幸彦	韓国	2019日本・中国・韓国大学生卓球交流戦	2019/8/22	2019/8/26	
講師	檜皮 貴子	オーストリア	第16回世界体操祭への参加および視察	2019/7/5	2019/7/15	
准教授	渋谷 徹	中国	国際交流事業(教育フォーラムおよび授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
准教授	中島 伸子	中国	国際交流事業プログラムの成果検証のために、参加学生を対象とした観察・インタビューデータを収集する	2019/10/18	2019/10/23	科研費(基盤C)分担 代表: 相庭和彦
准教授	横堀 壮昭	中国	国際交流事業(教育フォーラムおよび授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費



職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
	古田島 恵津子	中国	国際交流事業(教育フォーラムおよび授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
准教授	雲 尾 周	中国	国際交流事業(教育フォーラムおよび授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
教授	伊 野 義 博	中国	国際交流事業(教育フォーラムおよび授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
教授	宮 蘭 衛	中国	日中教育フォーラム及び授業研究交流参加	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
	川 端 弘 実	中国	北京師範大学珠海分校及び同附属学校との国際交流事業	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
教授	相 庭 和 彦	中国	国際交流事業(教育フォーラムおよび授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
准教授	尾 身 浩 光	中国	国際交流事業(教育フォーラム及び授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	基幹的経費
特任教授	大 橋 英 喜	中国	国際交流事業(教育フォーラム及び授業交流等)	2019/10/18	2019/10/23	遠隔コミュニケーションシステム構築(教職)社会適応力人材育成プロジェクト+
	小 林 昭 三	ハンガリー	GIREP-ICPE 2019Coference に参加し研究発表と研究交流を実施	2019/6/27	2019/7/6	科研費(基盤C)分担代表: 興治文子
教授	向 山 恭 一	中国	新潟大学創生学部学生の北京師範大学珠海分校学生との交流会、同大学附属学校訪問を目的とする訪中団の指導および引率	2019/9/19	2019/9/24	基幹的経費
准教授	志 賀 隆	モンゴル	モンゴル西部の植物相調査	2019/7/21	2019/8/4	基幹的経費
教授	佐 藤 哲 夫	中国	新時代専門認定をもとにした教育カリキュラムの研究交流会	2019/7/11	2019/7/15	基幹的経費
准教授	大 庭 昌 昭	中国	最新の中国でのVR, AR研究の視察と教育改革フォーラムへの参加	2019/12/1	2019/12/7	基幹的経費
准教授	天 野 達 郎	オランダ	国際環境人間工学会	2019/7/6	2019/7/14	科研費(基盤B)
准教授	古 田 和 久	オランダ	11th International Convention of Asian Scholarsへの参加	2019/7/14	2019/7/21	科研費(基盤C)
教授	佐 藤 哲 夫	メキシコ	アルカイックから現代までのメキシコ美術の調査	2020/2/26	2020/3/4	基幹的経費
准教授	田 中 咲 子	オーストリア	科研費新学術領域「身振り概念の変化のメカニズム」のための資料調査、招聘予定の研究者(ミュンヘン大V.ロイフレ氏)との打ち合わせ	2019/9/15	2019/9/29	科研費()
准教授	中 島 伸 子	中国	交換留学生に係る研究調査	2019/11/29	2019/12/3	
准教授	雲 尾 周	中国	交換留学生に係る研究調査	2019/11/29	2019/12/3	科研費(基盤C)代表: 相庭和彦

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
特任教授	大橋 英喜	中国	新潟大学と北京連合大学間のテレビ会議の支援	2019/11/29	2019/12/3	遠隔コミュニケーションシステム構築(教職)社会適応力人材育成プロジェクト+
教授	相庭 和彦	中国	交換留学生に係る研究調査	2019/11/29	2019/12/3	科研費(基盤C)
教授	牛山 幸彦	ハンガリー	16th ITTF Sports Science Congress 参加	2019/4/18	2019/4/24	寄付金(卓球競技に関する研究助成)
教授	相庭 和彦	中国	科研会議及び北京師範大学実験小学交流協定締結	2020/1/11	2020/1/13	基幹的経費
教授	伊野 義博	中国	民族音楽研究及び民族音楽教育研究交流	2019/6/12	2019/6/17	
特任教授	大橋 英喜	中国	教職大学院に係る研究調査及びテレビ会議システムの運用	2020/2/7	2020/2/12	遠隔コミュニケーションシステム構築社会適応力人材育成プロジェクト
教授	宮 蘭 衛	中国	科学研究費基盤研究(C)による調査・視察	2020/2/7	2020/2/12	科研費(基盤C)
教授	佐藤 亮一	韓国	ICSANE2019に参加	2019/10/30	2019/11/2	助成金(永井エヌ・エス)
教授	相庭 和彦	中国、韓国	グローバル人材育成に向けた国際交流プログラムについての評価方法に関する調査	2020/2/7	2020/2/12	科研費(基盤C)
准教授	足立 幸子	アメリカ	69th Annual Conference of the Literacy Research Association への参加	2019/12/3	2019/12/9	科研費(基盤C)
准教授	大庭 昌昭	南アフリカ	WORLD CONFERENCE ON DROWING PREVENTION 2019 への出席	2019/10/5	2019/10/11	科研費(基盤C)
准教授	志賀 隆	韓国	済州島、京畿道、江原道およびソウル特別市(大韓民国)におけるヒメウキクサ(サトイモ科)を含む水生植物の分布調査および標本調査	2019/6/6	2019/6/11	基幹的経費
	李 裕 梨 (LEE Yulee)	韓国	済州島、京畿道、江原道およびソウル特別市(大韓民国)におけるヒメウキクサ(サトイモ科)を含む水生植物の分布調査および標本調査	2019/6/6	2019/6/11	基幹的経費
	郷 晃	ドイツ、チェコ	ヨーロッパ美術研修学生引率、美術館博物館調査	2019/11/24	2019/12/5	基幹的経費
教授	土佐 幸子	オランダ	世界授業研究会(WALS)に参加し論文発表を行う	2019/9/2	2109/9/8	科研費(基盤B)
准教授	一柳 智紀	オランダ	WALS2019 conferenceへの参加、発表	2019/9/1	2019/9/8	科研費(基盤C)分担 代表:坂本篤史
准教授	田中 咲子	スペイン	8月3-4日 科研(顔・身体学)領域会議に参加し、研究発表(東大駒場キャンパス)、8月5-9日ブラド美術館、考古学博物館等(スペイン、マドリッド)にて作品調査。	2019/8/3	2019/8/11	科研費
准教授	渋谷 徹	中国	異文化間コミュニケーション力の検討及び日本社会科教育学会の授業研究交流	2019/9/10	2019/9/15	社会適応力人材育成プロジェクト+
特任教授	大橋 英喜	中国	異文化間コミュニケーション力の検討及び日本社会科教育学会の授業研究交流	2019/9/10	2019/9/15	社会適応力人材育成プロジェクト+

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	雲尾 周	中国	教職大学院に係る研究調査	2020/2/7	2020/2/12	科研費(基盤C)分担 代表:相庭和彦
准教授	雲尾 周	中国	北京師範大学実験小学交流協定締結及び科研会議	2020/1/11	2020/1/13	基幹的経費
准教授	足立 幸子	デンマーク	第21回ヨーロッパリテラシー大会(Conference on Literacy)への参加及び研究打ち合わせ	2019/8/1	2019/8/9	科研費(基盤C)
教授	佐藤 亮一	スペイン	2019電磁気学の発展的応用に関する国際会議に出席するため	2019/9/7	2019/9/16	科研費(基盤B)
	橋本 拓也	韓国	ICSANE2019に参加し、研究発表および資料収集の補助を行う。	2019/10/30	2019/11/2	基幹的経費
准教授	田中 咲子	エジプト	科研費基盤A「パルテノン彫刻研究」(分担者)のための調査	2019/9/1	2019/9/10	
准教授	中島 伸子	ギリシャ	European conference on Developmental Psychology出席	2019/8/28	2019/9/2	科研費(基盤C)
	ZHU GUANHUA (シュカンカ)	中国	中国大学生における健康教育調査のため	2019/8/26	2019/9/17	基幹的経費
教授	土佐 幸子	アメリカ	物理教育研究者のEtkina教授の講義の参観と協議	2020/3/1	2020/3/5	科研費(基盤B)

## 7. 附属施設の活動

### 7.1 附属新潟小学校

#### (1) 特色ある活動

##### ① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

令和元年度は昨年度に引き続き、研究主題「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」の下、新学習指導要領の方向性を実現しようと、教育課程のカリキュラム・マネジメント研究を推進した。並行して、指定研究授業、拡大部内研究授業やオータム研、GATA-KENにおける授業公開、初等教育研究会における授業公開等、教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から1500名を越える参加者が集う2月開催の初等教育研究会において公開している。「年間指導計画の各教科や学年の連動システムの確立」、「パフォーマンスを資質・能力に応じて評価軸を設定して見取る方法」、ICTを含む「ツール活用能力の育成」や「学級力」は、附属新潟小学校が全国に先駆けて発信しているもので、各学校においても活用されている。また、「研究紀要第77集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」、研究誌「授業の研究 (N-port)」等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

##### ② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。令和元年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生16名，5月と10月）
- b. 観察参加実習（2年生68名，9月2日～6日）
- c. 春期教育実習（新潟大学教育学部3・4年生 33名，別科生 3名，新潟医療福祉大学3名，県立大学1名 6月3日～14日）
- d. 秋期教育実習（新潟大学教育学部3年生 30名，別科生 1名，教職大学院 1名，新潟薬科大学2名 10月21日～11月1日）

上記のような教育実習の事前事後指導において、大学教員と連携して、大学の授業コマ数約20コマ担当。その他、教員養成に関わって、令和元年度は、教科等の授業づくりや学級経営の授業の講師として授業を行っている。

##### ③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

小学校、中学校、特別支援学校と次のような交流活動を行っている。

- ・ペアシステムによる小学校低、中、高学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動
- ・小、中の教職員が合同で職員研修会を実施
- ・特別支援学校の高等部の生徒による校内環境整備の実施
- ・特別支援学校の高等部の生徒による研究会における飲み物提供

##### ④ 食に関する指導等，健康教育に関する取組

- ・特別活動等の時間や給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。また、食に関する教科等横断的な学習単元を開発した。さらに、初等教育研究会において栄養教諭による授業を公開し、研究協議会を開催した。
- ・児童会、給食委員会活動を活用し、給食時間を充実するための取組を行った。

##### ⑤ 学びを生かした子どもの主な活躍

- ・新潟県競書大会，新潟県書初大会，新大全国書初大会など各種大会入賞多数

- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール入賞者多数
- ・新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数
- ・新潟市小・中学校理科作品展優秀賞受賞 他入賞者多数
- ・ジュニア展, 第14回新潟教育アート展など入賞者多数
- ・新潟市陸上競技記録会入賞者多数

⑥ その他

- ・教員免許状更新講習会の実施
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣
- ・教員研修, 県内外の教育委員会, 学校の視察の受入

(2) 研究会, 講演会の開催

① 令和元年度初等教育研究会

- a. 日 時 令和2年2月6日(木)・7日(金)
- b. 会 場 附属新潟小学校
- c. テーマ 「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現 - 3年次研究 -」
- d. 内 容 公開授業・全体会・シェアリングタイム・ワークショップ・講演会  
 フォーラム1「附属式学級力」  
 フォーラム2「思考ツール×ICT」  
 フォーラム3「保育・食育」  
 フォーラム4「学習評価」  
 フォーラム5「指導スキル」  
 フォーラム6「異学年合同学習」  
 講演会 講師 京都大学大学院 教育学研究所 教授 西岡 加名恵 様
- e. 参加者 学部教員, 県・市教育委員会指導主事, 県内県外の教員等, 約2000名

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- a. 『研究紀要 第77集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現』
- b. 『授業の研究 (N-port)』(第200号: 年1回発行)  
 テーマ「資質・能力の発揮, 自覚を繰り返す学習場面の重点化」

## 7.2 附属新潟中学校

### (1) 特色ある教育活動

#### ① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

実践研究「豊かな対話を求め、確かな学びに向かう生徒を育む授業」の推進

#### ア 研究の内容

文部科学省「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」の指定事業として、「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業改善のために、以下の3点を研究課題として設定した。

- ① 「確かな学びを促す3つの重点」を基に資質・能力を育成することを目標とした授業改善の推進
- ② 生徒が身に付けた資質・能力の高まりをより実感できる評価方法の工夫
- ③ 生徒が教科等横断的に自分の生き方に必要な資質・能力として実感できるカリキュラムづくりの推進

研究課題①～③を踏まて、実践地域および拠点校・新潟大学教育学部附属新潟中学校（以下、附属新潟中学校と表記）において取り組む3年次研究の概要は以下の通りである。

#### ①に関して

- ・ 育成する資質・能力の明確化、コンピテンシーの育成
- ・ 全教科で「確かな学びを促す3つの重点」を基に、資質・能力が高まった生徒とそのため有効な働き掛けを明らかにすること。

今年度は、「学びの再構成を促す工夫」と「コンピテンシーの育成」に重点を置いて研究を推進した。「学びの再構成」とは「生徒が単元・題材で中心となる対象に関する知識及び技能を、様々な事象・現象など（実生活につながる要素となるもの）を通してとらえ直し、相互に関連付け、構造化していくこと」と定義した。「学びの再構成を促す工夫」は、生徒の連続した学びのプロセスに合わせ、「学びの再構成を講じる前」「学びの再構成を講じた時」「学びの再構成を講じた後」の3つに分けて、働き掛けを構想した。「学びの再構成を促す工夫」を手だてとして講じることにより、生徒は知識及び技能を、様々な事象・現象等を通してとらえなおすことで、資質・能力を一体的に活用・発揮し、知識及び技能の概念化や習熟化が図られ、コンピテンシーを表出させる。なお、コンピテンシーはOECD Learning Framework 2030で示されている「Knowledge（知識）」「Skill（スキル）」「Attitudes&Values（態度・価値観）」を包括した概念であり、具体として、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力である。

#### ②に関して

- ・ 「学習としての評価」を前提に、生徒のメタ認知を高める評価方法の開発（主としてプログレスカードの活用）

#### ③に関して

- ・ 総合的な学習の時間の工夫
  - 生徒の学びを統合する「生き方探究・創生探究」の時間の設定
  - 体験的活動と学びのメタ認知を往還させる探究活動の設定

#### ④その他－研究の連携強化の工夫

- ・ 全職員が参加する全体研究を軸とした校内研究体制の充実

- ・ 研究者（京都大学大学院・石井英真氏，東洋大学・後藤顕一氏，國學院大學・寺本貴啓氏，新潟大学教職大学院・一柳智紀氏）との連携を図り，先進的な知見からの実践研究の推進
- ・ 県内大学（新潟大学が主），市内・県内の行政機関，市内・県内の公立中学校との共同研究の推進
- ・ 教育研究発表会，春の公開授業研修を軸に県内，市内に広く研究成果の発信をする研究会の実施
- ・ 実践協議会を年間2回開催し，指導者の方から本事業の指導を受ける。
- ・ 資質・能力の測定のための外部評価（ベネッセコーポレーション・GPS-Academic）の活用

## イ 成果と課題

### ○ 成果

今年度，「学びの再構成を促す工夫」を主たる手だてとして取り組んだことによって，

- ・ 生徒が新たな視点を基に，知識及び技能を意識的に関連付けながら課題解決を図ることにつながった。
- ・ 「学びの再構成を促す工夫」を手だてとして講じることにより，コンピテンシー（新たな価値を創造する力，対立やジレンマを克服する力，責任ある行動をとる力）を表出することができた。
- ・ 生徒アンケートとGPS-Academicで高い数値が測定され，批判的思考力，協働的思考力，創造的思考力が育成されていることがわかった。

### ○ 課題

- ・ 知識及び技能に関して，生徒が教科等の学習が直接的に実生活に役立っているという実感をもてていない。今後，私たちが取り組むべきことは，生徒が教科等の学習を通して，社会に貢献する態度，自己肯定感などを実感しながら，これからの社会に必要な資質・能力を身に付ける必要がある。
- ・ 人間性に関して，自分の弱みに目が向き，自己肯定感が低い生徒がいることがわかった。今後は，他者とのかかわりや教科等の授業の枠を越え，生徒が自ら学んだことが社会に貢献したり，集団に必要なものとして受け入れたりするなどの経験によって，生徒の学びに向かう力を涵養する必要がある。

## ② 学部・教職大学院と連携した活動

### a. 学校インターンシップの受け入れ

今年度は実施しなかった。

### b. 学部・教職大学院教員および学生との共同研究

新潟大学教職大学院生を5名受け入れた。

### c. 研究会等における学部・教職大学院教員との連携の強化

ア，春の授業研究会では，協議会において，12名の教育学部・教職大学院教員からご指導をいただいた。

イ，秋の授業研究会では，協議会において，12名の教育学部・教職大学院教員からご指導をい

ただいた。

d. 学生によるボランティア

学習：今年度は実施しなかった。

保健室：保健室の業務を円滑に進めるために、医学部保健学科より8名の保健室ボランティアが、年間18回、活動した。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

- ・ 11月21日（木）に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と合同で、避難訓練を実施した。

(2) 教育実習

① 期日，受入人数

a. 春季教育実習	6月3日（月）～6月21日（金）	23人
b. 2年次観察実習	9月2日（月）～9月6日（金）	46人
c. 秋季教育実習	10月21日（月）～11月1日（金）	20人
d. 1年次入門実習	年間3回合計3日間	13人

② 特色ある実習内容

- a. 春季教育実習，秋季教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- b. 2年次観察実習において，同一敷地内にある附属新潟小学校の授業を参観する機会をもった。

(3) 研究会，講演会等の実施

① 授業研究会（会場：附属新潟中学校）

（研究主題「豊かな対話を求め，確かな学びに向かう生徒を育む授業」）

- a. 5月～7月（各教科・領域で日時を設定）に，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間の各教科・領域において，授業研究を行い，教育学部・教職大学院教員，行政関係者から，ご指導いただいた。また，公立校・私立校の教員も授業を参観し，協議会に参加した。
- b. 9月10日（火）に，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間の各教科・領域において，教育学部・教職大学院教員，行政関係者，公立校の教員とともに，中学校教育研究発表会に向けて，授業案の検討を行った。

② 令和元年度中学校教育研究発表会（会場：附属新潟中学校）

（研究主題「豊かな対話を求め，確かな学びに向かう生徒を育む授業」）

- a. 期日 10月18日（金）
- b. 内容 授業公開（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間），授業協議会



- c. 参会者 教育学部・教職大学院教員，行政関係者（県・市教育委員会指導主事），  
県内外教員・学生 他 合計556人

### ③ その他

a. 中学校免許外教科担当者研修協力校

ア、期 日 5月22日（水）

イ、参加者 新潟市立中学校免許外担当者（12名）

ウ、内 容 授業公開（国語，社会，数学，理科，保健体育，技術，英語），協議会

b. 初任者研修授業研修協力校

ア、期 日 6月11日（火）

イ、参加者 下越教育事務所管内初任者（中学校28人，特別支援学校2人）

下越教育事務所指導主事，当校職員

ウ、内 容 授業公開（各教科，道德），協議会，講話

c. 学校視察の受け入れ

- |                   |    |                  |
|-------------------|----|------------------|
| ・ 群馬県総合教育センター     | 2名 | 9月19日（木）         |
| ・ 八戸市立根城中学校       | 1名 | 10月15日（火）～18日（金） |
| ・ 広島県教育委員会        | 1名 | 11月6日（水）         |
| ・ 福島市教育委員会        | 6名 | 11月26日（火）        |
| ・ 静岡大学教育学部附属静岡中学校 | 1名 | 11月29日（金）        |

### (4) 研究報告等

#### ① 研究誌

研究紀要第61集・教育実践集

#### ② 研究成果の発信

- a. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」・実践協議会（7月）
- b. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」，「学習評価講演会（講師：京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真 様）（12月）
- c. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」，実践協議会（1月）
- d. 文部科学省指定校事業「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの学習・指導方法の改善の推進」，2年次報告書（3月）

## 7.3 附属特別支援学校

### 1. 特色ある活動

#### (1) 連携・交流活動

##### 【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：
- ・小学部1，2年生児童と附属新潟小学校低学年複式学級児童（授業交流）
- ・小学部3，4年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級
- ・小学部5，6年生児童と附属新潟小学校高学年複式学級
- ・中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部5，6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

##### 【発達障害児教育】

- ・新潟市内小・中学校への支援会議の参加 約80回

##### 【学部・大学院との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ7人
- ・教員免許状更新講習に，管理職のほかにゲストスピーカーとして教諭1人参加
- ・大学院の教員養成実地指導講師として校長他，職員参加
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会，特別支援教育研究会，すなやま祭，学部・学級行事

##### 【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月1回程度開催
- ・保護者有志が教育学部学生や院生と連携して運営する放課後活動（アフタースクール）への支援，会場提供：月3回程度実施，研究会，すなやま祭での発表と作品展示

##### 【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

##### 【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。  
（9月14日開催。高等部生徒22，卒業生69，卒業生保護者21，旧職員7人，現職員29人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。  
学校行事（すなやま祭）開催日に併せて設定  
（1月25日開催。卒業生71人，卒業生保護者22人参加）

##### 【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ（すなやまの家を会場に提供）  
延べ約2,900人利用

#### (2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

##### 【発達障害通級指導教室の開設】

- ・通級指導教室：新潟市内小・中学生が週1回定期支援
- ・教育相談：不定期は多数

##### 【教育相談・支援活動】

- 研究会・研修会講師等



## 7.4 附属幼稚園

### (1) 特色ある活動

#### ① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

平成29年度から、文部科学省研究開発指定を受け、新領域「いのち」を中心とした教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発に取り組んでいる。

幼稚園としては、12か年一貫教育における幼児教育について、「心を動かしながら、主体的に環境に働きかけて楽しむ遊び」を目指している。目指す遊びを見取る視点として、「願い」「思考」「対話」「繰り返し」「没頭」の5つの様相と、これらの様相と密接にかかわる心の動きである「感情」を位置づけている。子ども一人一人がそのような遊びに浸っていくためには、教師がその子を人間として理解しようとし、発達や内面をとらえ、支援していくことが何より重要である。多面的で継続的な子供理解を土台に、遊びに向かう子供の思いや願いを丁寧に受け止めて支援を行うことにより、資質・能力をはぐくみ、求める子供の姿の具現を目指している。

#### ② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a 入門教育実習 (28名)
- b 春期教育実習 (1名)
- c 観察参加実習 (63名)
- d 秋期教育実習 (1名)
- e 健康観察実習 (48名)
- e 他大学の教育実習 (2名)

#### ③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。

行事では、「幼・小・中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」を行っている。

- a 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日)
- b 観客型連携による相互訪問
- c 中学生の保育参観、遊びの紹介
- d 園児の小学1・2年生との交流活動
- e 研究授業・保育の相互参観
- f 授業・保育交流

#### ④ 大学との連携

- a 教職大学院「発達理解の理論と実践」の講師 教諭 長谷川 宏之
- b 中島伸子准教授の授業における保育参観の講師 教諭 名塚 裕子
- c 教職サポートセンターでの講座 教諭 長谷川 宏之 教諭 青柳 直也
- d 共同研究
  - ・ 教諭 名塚 裕子 (足立幸子准教授と)
  - ・ 教諭 長谷川 宏之 (高橋桂子教授：実践女子大学, 笠井直美教授らと)

- ・ 教諭 青柳 直也 (中島伸子准教授と)
- ・ 養護教諭 西山 寛子 (笠井直美教授と)

## ⑤ 教育機関との連携

### a 県教育委員会への協力

- ・新潟県幼稚園初任者研修講師 教諭 名塚 裕子 教諭 青柳 直也
- ・新潟県幼稚園等新規採用教員研修会会場園 (17名)

### b 市教育委員会への協力

- ・三条市教育委員会主催子育て支援課主催「保育者実践力向上研修会」指導者  
教諭 名塚 裕子 教諭 長谷川 宏之
- ・佐渡市教育委員会総合教育センター主催「保幼小連絡研修会」指導者  
園長 高橋 喜一郎 教諭 長谷川 宏之
- ・長岡市教育委員会保育課主催「保育園・幼稚園研修会」  
教諭 長谷川 宏之 教諭 名塚 裕子

### c 公立学校等への協力

- ・阪之上小学校校内研修指導  
教諭 名塚 裕子 教諭 長谷川 宏之 教諭 青柳 直也

## ⑥ 中国との交流

- 北京師範大学南奥実験学校等視察
  - ・10月18日～23日 教諭 名塚 裕子 参加  
公開保育, 研修交流

## (2) 研究会, 講演会の開催

### ① 令和元年度教育研究協議会

- a 開催日 令和元年9月19日幼・小・中合同教育研究協議会
- b 会場 附属長岡校園各教室・保育室・体育館等
- c 内容 研究主題にもとづく保育を公開し, 全体発表, 協議会をもつ。その後, 二つの講演会を開催する。

〈講演会① 於 附属長岡中学校体育館〉

講師 国土館大学 体育学部こどもスポーツ教育学科 教授 澤井 陽介 様

演題 「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善」

〈講演会② 於 附属長岡小学校体育館〉

講師 東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤 利彦 様

演題 「子ども期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」

※ 講演会①②は, 同時開催。参加者が選択して聴取。

### ② 幼児教育研修会「保育のとびら」

- a 第1回 5月15日 (参加者102名) 公開保育, 情報交換,  
講演 (新潟大学教職大学院 中島伸子准教授)

- b 第2回 7月4日（参加者40名）講話・造形ワークショップ（新潟大学教育学部 柳沼宏寿教授）
- c 第3回 11月8日（70名）公開保育，情報交換，講演（新潟大学教職大学院 中島伸子准教授）

③ 保護者を対象とした講演会「にこにこ子育てハッピー講座」

- a 第3回 7月10日（参加者18名）講師 新潟大学教職大学院 准教授 中島 伸子 様
- b 第4回 11月1日（参加者30名）講師 子育てカウンセラー 小柳 信子 様
- c 第5回 2月13日（参加者15名）講師 新潟大学教育学部 准教授 足立 幸子 様

## 7.5 附属長岡小学校

### (1) 特色ある活動

#### ① 初等教育研究の推進

平成29年度から4年間、文部科学省研究開発学校指定を継続して受けた。研究開発課題は、「知識や情報等を結び付け、多様な「生命」のつながりを発展させたり、「生命」の基盤となる「安全」な社会を実現したりする資質や能力をはぐくむための、新領域『いのち』を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発」である。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 認知的・社会的・実践的資質・能力をはぐくむために、新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの開発。

イ 新領域「いのち」の学習内容を「生命」とその基盤である「安全」とし、幼小中12年間を貫いた系統的な学習内容の整備。

これらのことを課題として研究を進め、第3年次は、9月18日の教育研究協議会で研究成果を発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげるとともに、幼小接続部会を開催して一貫カリキュラムの見直しを行った。



1年 図画工作科



4年 「いのち」



5年 家庭科

#### ② 教育実習生の受け入れと指導

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| a 入門教育実習（サマースクール） | （1年生 11名 6月20日～6月21日）         |
| b 観察参加実習          | （2年生 68名 9月2日～9月6日）           |
| c 春期教育実習          | （3・4年生及び別科生 25名 6月3日～6月14日）   |
| d 秋期教育実習          | （3・4年生及び別科生 24名 10月21日～11月1日） |

#### ③ 連携理念に基づく教育活動

##### a 長岡地区3校園による学校行事等の連携

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリックな行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年2回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

##### b 学部生による指導補助

4・5・6年児童が体育科の学生2名から4回にわたって体操の指導を受け、成果を12月7日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。

c 5年生の親子大学訪問

6月10日（月），大学の協力を得て，キャリア教育の一環として実施し，他学部で講義を受けた。（教育学部，理学部，工学部，農学部，災害復興科学研究所）

保護者の参加率が非常に高く，毎年参加者から好評を得ている。



新潟大学の様々な施設を訪問

④ 大学との連携

- |   |                       |  |
|---|-----------------------|--|
| a | 教育実習事前指導              | 教諭 倉石 智幸                                 |
| b | 社会科教育法（初等）            | 教諭 倉石 智幸                                 |
| c | 大学実地指導 家庭科教育法B（初等）    | 教諭 関 慎太郎                                 |
| d | 教育実習事後指導              | 教諭 畠山 明大 主幹教諭 酒井 哲央                      |
| e | 免許状更新講習会の指導者・ゲストスピーカー | 校長 松井 謙太 主幹教諭 酒井 哲央<br>指導教諭 平野 秀穂        |
| f | コアカキュラムGW             | 教諭 畠山 明大                                 |
| g | 教員養成実地指導              | 養護教諭 葦澤千奈美                               |
| h | 教職大学院 教育フォーラム         | 教諭 関 慎太郎                                 |
| i | 大学院授業                 | 主幹教諭 酒井 哲央 教諭 畠山 明大<br>教諭 倉石 智幸          |
| j | すぐに使える！「13の講座」        | 教諭 瀬下 圭太郎 主幹教諭 酒井 哲央<br>教諭 畠山 明大 教諭 清野 諒 |

⑤ 教育機関への協力

- a 文部科学省・県教育委員会等への協力
- ・小・中学校の初任者研修協力校として，提案授業及び授業協議会を開催した。  
（6月：道徳科・算数科 小学校初任者23名，特別支援学校初任者2名  
10月：算数科・保健教育 養護教諭初任者15名）
- b 長岡市教育委員会・見附市教育委員会・三条市教育委員会への協力
- ・長岡市教育委員会の市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成塾」の事業に協力した。（国語科，算数科，理科，体育科，音楽科）
  - ・教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき，長岡市教育センター主催の研修講座に講師として協力した。（算数科，道徳科）
  - ・見附市教育委員会主催の出前研修講座の講師として協力した。（国語科，算数科，総合的な学習の時間）



- ・三条市教育委員会の小中一貫教育推進委員として協力した。（小中一貫推進委員1名）
- c 公立学校等との連携
  - 校内研修等指導者として派遣
  - ・長岡市立阪之上小学校校内研修会講師 教諭 瀬下 圭太郎
  - ・見附市立見附小学校校内研修会講師 教諭 笠原 知明
  - ・魚沼市教育実習振興会道德部会第一研修会講師 教諭 瀬下 圭太郎
  - ・十日町市十日町千手小学校校内研修講師 教諭 笠原 知明
  - ・十日町市十日町川治小学校校内研修講師 教諭 瀬下 圭太郎
  - ・長岡市立阪之上小学校校内研修会講師 教諭 平野 秀穂
  - ・魚沼市立須原小学校校内研修講師 教諭 瀬下圭太郎
- d 北陸福祉保育専門学院生徒への授業公開・協議会
  - ・子ども未来学科・福祉保育学科4年生 5名対象 全12学級授業公開
  - ・子ども未来学科・福祉保育学科3年生 13名対象 国語科2学級授業公開

## ⑥ 中国との交流

- a 北京師範大学南奥実験学校, 惠州附属学校等視察
  - ・9月18日（金）～23日（水） 教諭 廣野 達也
  - ・中国での授業公開（理科）
  - ・北京師範大学珠海分校での講演



北京師範大学南奥実験学校, 惠州附属学校等視察

## ⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

- a 食に関する個別的な対応の取組
  - ・食への興味を引き出す「バックン通信」（食育に関する質問箱）の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。
- b 栄養教諭による講話等
  - ・毎日の「食育新聞」の発行（小学校に掲示）
  - ・学校ホームページブログでの給食献立やレシピの紹介（毎食）
  - ・学級担任への食育資料提供
  - ・小学校, 幼稚園の給食試食会での保護者への講話
  - ・教育実習生（別科生）への講話
  - ・食育標語の募集と表彰

## (2) 研究会、講演会等の開催

### ① 教師力アップセミナー

- a 日時 2019年7月6日(土)
- b 会場 附属長岡小学校
- c テーマ 授業と結び付けた学級づくりの在り方
- d 内容 授業公開, 授業づくり講座, 学級づくり講座
- e 参加者 県内外の教育関係者, 学生など計130名の参加者

### ② 令和元年度教育研究協議会事前打合せ

- a 日時 2019年 8月20日(火)
- b 会場 附属長岡小学校
- c テーマ 「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ」(第3年次研究)
- d 内容 分科会(研究概要の説明, 研究会単元の検討, 研究会の日程と役割分担)
- e 参加者 指導者, 司会者, 研究協力者

### ③ 令和元年度教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a 日時 2019年 9月19日(木)
- b 会場 附属長岡校園(幼稚園, 小学校, 中学校)
- c テーマ 「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ」  
—「統合的な学び」の実現を通して—(第3年次研究)
- d 内容 全教科等の授業公開, 授業協議会および教育講演会
  - (1) 「統合的な学び」の設計
    - ・各教科等における「求める子供」と「統合的な学び」の設定
    - ・「統合的な学び」を実現する手だての構想
  - (2) 新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発
    - 授業 ・「統合的な学び」を実現するための手だて  
・新領域「いのち」
    - 講演 ・国土舘大学体育学部子どもスポーツ教育学科教授 澤井 陽介 氏  
演題 「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善」  
・東京大学大学院教育学研究科教授 遠藤 利彦 氏  
演題 「子ども期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」
- e 参加者 県内外の教員, 学生, 学部教員, 県・市町村教育委員会指導主事, 当校教員等  
約1100名の参加者

## (3) 研究報告等

### ① 紀要

- ・『研究紀要 新たな世界を創り出す子供をはぐくむ  
—「統合的な学び」の実現を通して— 第3年次研究』(年1回発行)

② 文部科学省研究開発指定 研究開発実施報告書

・『令和元年度 研究開発実施報告書・第3年次』

研究開発課題

知識や情報等を結び付け、多様な「生命」のつながりを発展させたり、「生命」の基盤となる「安全」な社会を実現したりする資質や能力をはぐくむための、新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発

③ 教員の著書・論文・研究発表等

小学道德通信 はばたこう明日へ2019秋号（2019）教育出版株式会社 実践事例紹介

教諭 瀬下圭太郎

学校給食「季節の和食献立」2019.Vol.70 No.777

栄養教諭 久保 尚子

季刊「栄養教諭」2019 春 第55号「学校給食を活用した各教科等との連携」

栄養教諭 久保 尚子

全国数学教育学会誌 数学教育学研究 第25巻 第2号 2019論文採用

教諭 川上 節夫

東洋館出版社「講座 算数授業の新展開」第6学年 原稿執筆

教諭 川上 節夫

小学館 小3, 4教育技術5月号「ベテラン教師直伝！夏の研修会200%活用術」

教諭 畠山 明大

小学館 小1, 2教育技術11月号「夢中で取り組む自学ノート指導」

教諭 畠山 明大

小学館 小1, 2教育技術1月号「1月のロケットスタートと3月までに育てたい子どもの姿」

教諭 畠山 明大

明治図書 教育Zine「明日の学級づくりに役立つ 学級経営ガイドブック

教諭 畠山 明大

明治図書 「クラスを最高の笑顔にする！学級経営365日 困った時の突破術」

教諭 畠山 明大 教諭 岡田 順子

(4) その他

① 危機管理に対する活動

a 大規模災害を想定した引き渡し訓練（6年目）

- ・緊急時対応マニュアルの修正・配付
- ・体育館での児童引き渡し訓練の実施

b 緊急メール配信システムの整備

c インストラクターによる全学年着衣泳指導

② 保護者ボランティアによる学校支援

- ・読み聞かせ、本の修繕、生け花、花壇整備、自習、校外学習、
- ・ミシン、水泳、スキーの9つで、約200人が登録。
- 児童の安全安心のために教育活動を支援

③ J R長岡駅と連携した電車の交通安全教室の実施

「電車のマナー・安全指導」（J R長岡駅職員8名）

④ P T A組織の活性化

- ・校園スポーツ交流会（インディアカ）の開催

⑤ 教育環境の整備

a 高学年教室への電子黒板設置

## 7.6 附属長岡中学校

### 1. 教育研究

#### (1) 「統合的な学び」の実現と資質・能力のはぐくみ

当校を含む附属長岡校園は現在、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、物事の意味や本質を問い、納得解や最適解を求め続ける子供（以下「新たな世界を創り出す子供」）をはぐくんでいる。そのために子供に必要な資質・能力を、大きく以下のように整理した。

#### 【「新たな世界を創り出す子供」に必要なとされる具体的な資質・能力】

【認知的資質・能力】	【社会的資質・能力】	【実践的資質・能力】
「論理的思考力」	「敬意」	「粘り強さ」
「先を見通す力」	「共感的態度」	「探究心」
「伝える力」	「協働する力」	「省察的態度」

また、「自己の資質・能力への自覚」を促し、「何が分かったか」「何を学んだか」という学習内容の振り返りだけでなく、子供自身が「何ができるようになったか」「どこに不十分さがあるか」という点を捉える姿を目指している。

本年度は、「統合的な学び」を実現する手立ての視点を、以下のように明らかにした。

#### 【「統合的な学び」の有効な手立て】

認知的資質・能力	社会的資質・能力	実践的資質・能力
<b>論理的思考力</b> 既習・既有知識とのずれのある課題設定 理由の妥当性を検討する活動の組織	<b>敬意</b> 考えや立場の異なる人との出会い	<b>粘り強さ</b> もう一歩で解決できる課題の設定
<b>先を見通す力</b> 解決方法の選択	<b>共感的態度</b> 共通点に気付かせること	<b>探究心</b> 新たな疑問や思いを生むこと ※単元構成や課題設定、条件変更等
<b>伝える力</b> 考えや思いを共有するためのこと ※用語や図、モデル等	<b>協働する力</b> 一人では解決できない課題	<b>省察的態度</b> 変容の自覚を促すこと

#### (2) 新領域「いのち」と幼小中一貫カリキュラム開発

子供が問題を自分事として捉え、粘り強く向き合う姿を実現するため、新領域「いのち」を中心とした各教科等横断型の幼小中一貫カリキュラムの開発を行っている。

学習内容は「生命」とその基盤である「安全」とし、それぞれ次のように定義した。

「生命」	有限性、固有性、相互性、連続性という要素をもつ生物の有り様、生き方
「安全」	生命を脅かす、大きなリスクがないこと

今年度は、主に以下の成果をまとめた。

- |                              |            |
|------------------------------|------------|
| ① 「生命」と「安全」を結び付ける単元開発        | ② 実践事例集の作成 |
| ③ 幼小中のつながりを見通した、よりよい単元配列の工夫  |            |
| ④ それぞれの単元における、学習コンテンツの関連の明確化 | ⑤ 評価方法の開発  |

#### (3) 教育研究協議会の開催

令和元年9月19日（木）に教育研究協議会を開催し、新領域「いのち」、及び各教科で公開授業を行った。また、国士舘大学の澤井陽介教授が「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善」の演題で、東京大学の遠藤利彦教授が「子ども期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」を演題

として講演を行った。参加者は、県内外教員、学生、学部教員、教育委員会指導主事など、校園全体で1101名（うち中学校296名）を数え、県内外のモデル校の役割を果たしていることを示した。



【研究会での授業の様子】

## 2 地域のモデル校・教員研修の拠点校

### (1) 附属学校教員の講師派遣

長岡市や見附市の教育センター研修講座、公立校の校内研修などに対し、講師派遣を15回行った。

### (2) 附属学校の授業公開

教育における地域の中心的役割を果たすべく、5月には「授業スキル公開講座」、1～2月には来年度の教育研究協議会に向けた「中間検討会」を開催し、公立校の現職教員や学生に対して授業を公開した。また、中越教育事務所と連携し、公立校の初任者に対して示範授業を行った。さらに、長岡市教育センターの教育講座と連携して授業を公開した。いずれの授業においても、参観者からは、「授業のつくり方や指導技術などについて勉強になった」との声が多数寄せられ、好評であった。

## 3 大学との連携を図った教員研修・教員養成への協力

(1) 現職教員研修への協力：教員免許更新講習において、大学教員と連携し、本年度の研究である「統合的な学びの実現」を取り上げ、ゲストスピーカーとして教員2名を派遣した。

(2) 学部授業、教職大学院授業への協力：講師として学部授業に9回、教職大学院授業に20回派遣し、授業づくりや研究についての新たな視座を現場から示した。また、新たに遠隔コミュニケーションシステムを導入し、附属長岡中学校の授業をライブ配信で五十嵐キャンパスに配信した。

(3) 教育実習生受け入れ：教育学部のみならず、他学部からも実習生を受け入れ、指導を行った。（本実習：春期35名、秋期22名、2年次観察・参加教育実習47名、1年次入門教育実習44名）

## 4 特色ある教育活動

### (1) 「ひと・もの・こと」に触れ、多様な価値観に気づき視野を広げる旅行体験

- ◆1年生研修旅行（福島：震災と復興）
- ◆2年生修学旅行（沖縄：戦争と平和）【中止】

### (2) 様々な「ひと・もの・こと」と出会い、考えを深める学習

- ◆英語の授業において留学生を招いて交流を図った。
- ◆青年海外協力協会グローバル人材課課長 加藤秀一様をお招きし、親子で講演を聞いた。
- ◆県立長岡高等学校の生徒を招き、ディベートの手法を学習した。

### (3) 授業・部活動などでの充実した活動

- ◆技術・家庭科（技術分野）での学びを生かし、ロボットコンテスト新潟県代表として4年連続、関東甲信越大会に出場した。
- ◆部活動では限られた時間の中で工夫して練習し、吹奏楽部が新潟県代表として3年連続、西関東大会に出場した。男子ソフトテニス部・剣道部が県大会に出場した。

## 8. 外部資金

### 8.1 科学研究費助成事業

科学研究費補助金は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っている。

平成31年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
28	基盤研究 (C)	岡野 勉	国定算術教科書の改訂過程に関する研究：教育実践研究との関連を基本的観点として
28	基盤研究 (C)	松井 賢二	大学生のキャリア成熟の変容を考慮に入れた包括的キャリア支援プログラムの開発研究
28	基盤研究 (C)	長谷川 敬三	等質および局所等質多様体上の複素幾何構造についての研究
28	若手研究 (B)	前田 洋介	コミュニティ・ガバナンスの制度と空間構造に関する日英比較研究
28	若手研究 (B)	田中 誠二	戦後復興期の衛生教育に関する実証的研究
28	若手研究 (B)	清水 文博	手書き文字の字形と学習者の主体性に関する研究－大正期から昭和初期を中心として
29	若手研究 (A)	釜本 健司	日本の中等公民教育における政治的・社会的判断力育成の歴史的研究
29	基盤研究 (C)	小林日出至郎	ホメロスの運動文化思想に関する研究
29	基盤研究 (C)	岡田 祥平	現代日本語に観察される書体の多様性に関する社会言語学的、音声学的研究
29	基盤研究 (C)	神村 栄一	児童・思春期に受けた認知行動療法についての成人青年を調査対象とした後ろ向き研究
29	基盤研究 (C)	佐藤 哲夫	ベアでの美術鑑賞による「他者性の対話」の研究
29	基盤研究 (C)	足立 幸子	エビデンスに基づいた読書の認知的・非認知的側面の評価手法の開発と評価ガイドの提案
29	基盤研究 (C)	入山 満恵子	認知特性の偏りを包括した学童期英語指導の体系化に関する研究
29	基盤研究 (C)	鈴木 賢治	X線応力測定法の粗大粒および微小領域への拡張
29	若手研究 (B)	田中 恒彦	ペリネイタル・ロスによる心理的問題の実態調査と支援プログラムの開発
30	基盤研究 (B)	天野 達郎	運動に伴う汗腺機能の適応メカニズム解明と熱中症予防への応用
30	新学術領域研究 (研究領域提案型)	田中 咲子	身振り概念の変化のメカニズムに関する美術史的考察－古代ギリシア・ローマ美術から
30	基盤研究 (C)	本間 伸輔	英語・日本語における数量詞作用域の決定に関わる統語的要因についての理論的研究
30	基盤研究 (C)	福田 学	教育学と脳科学の関係を自律性の観点から明らかにする現象学研究
30	基盤研究 (C)	古田 和久	社会階層構造と教育機会の格差に関する実証的研究
30	基盤研究 (C)	宮 蘭 衛	グローバル時代の異文化間コミュニケーション力育成のための東アジア共同研究体制構築
30	基盤研究 (C)	渡邊 流理也	脳の酸素消費状態の評価に基づいた重度脳障害児の表出行動に伴う活動負荷の解明
30	基盤研究 (C)	中 島 伸子	身体的痛みの理解と表現の生涯発達過程
30	基盤研究 (C)	工 藤 起来	アシナガバチが行う個体認識についての包括的検討
31	基盤研究 (B)	世取 山洋介	新教育基本法の比較教育法制研究をふまえた現代立憲主義に基づく逐条解釈
31	基盤研究 (B)	鈴木 恵	学びのプロセスと日本語書記史を統合する学習材・学習方法・カリキュラムの開発と検証
31	基盤研究 (B)	土佐 幸子	日本式アクティブ・ラーニング型教授法開発・実践による6大学物理教育イノベーション
31	基盤研究 (B)	佐藤 亮一	レーダボアリメトリによる広域河川氾濫領域の被災状況把握および救助用陸路検出
31	基盤研究 (C)	渡邊 道之	シュレーディンガー方程式および波動方程式の非線形性同定逆問題の研究
31	基盤研究 (C)	阿部 好貴	リテラシーを視座とする学校数学における出口の課題：数学的活動から数学的リテラシー
31	基盤研究 (C)	平尾 篤利	極間雰囲気微小径深穴加工用電極工具の成形精度へおよび影響の解明
31	挑戦的研究 (萌芽)	土佐 幸子	理科授業の国際比較に基づく挑戦的な高校理科カリキュラム開発
31	基盤研究 (C)	大庭 昌昭	子どもを溺水事故から守る小学校水泳教育プログラムの開発
31	基盤研究 (C)	小泉 明子	権力性の観点からみた夫婦同氏制度
31	基盤研究 (C)	永吉 秀司	ローコスト支持体を活用した弘長寺本殿壁画の再現
31	基盤研究 (C)	伊藤 克美	汎関数くりこみ群とゲージ対称性
31	基盤研究 (C)	高 清 水 康 博	巨大地震津波は北海道西部太平洋岸を繰り返し襲うか？
31	基盤研究 (C)	飯野 由香利	ライフステージ毎に必要なリスクマネジメントとESDを学ぶ住教育体制の構築
30	基盤研究 (C)	相庭 和彦	グローバル人材育成に向けた協働型国際交流プログラムの成果検証と評価方法の再検討

## 8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成31年度における寄附金の新規受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄附者	目的
志賀 隆	山下 伸子	教育学部理科教育専修生物学分野の教育・研究
志賀 隆	志賀 隆	緑色植物に関する研究および教育活動に対す
志賀 隆	株式会社 地域環境計画	湿地環境および水生・湿生植物の情報収集整
鎌田 正喜	鎌田 正喜	新規抗マラリア剤の合成研究に対する助成
教育学部	日本税理士会連合会	日本税理士会連合会による将来の租税教育を
体育科	山崎 健	保健体育・スポーツ科学講座の教育研究活動
山崎 健	山崎 健	スポーツ科学活動研究宇科学活動への支援

## 8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成31年度における新規受託研究および受託事業は下表のとおりである。

### ○ 受託研究

研究担当者	委託者	研究題目
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰後の転帰に関する研究
志賀 隆	国立研究開発法人 国立環境研究所	効果的な湿地モニタリング手法の開発
志賀 隆	神奈川県立生命の星・地球博物館	令和元年度レッドデータ生物調査

### ○ 受託事業

事業担当者	委託者	事業題目
平成31年度 無し		

## 8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成31年度における新規共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
村山 敏夫	日産自動車株式会社	高齢者の交通事故抑止環境整備のための運動
天野 達郎	株式会社ブルボン	スポーツ栄養食品の機能性評価研究
村山 敏夫	株式会社TBWA\HAKUHODO	トリトン・セーフティ・イニシアティブ～まち・生活・交通の安全な未来へ～

(巻末資料)

平成31(令和元)年度 新潟大学教育学部入学者状況

課 程	募集人員	入学者数	男 女 別				県内・県外別等					
			男		女		県 内		県 外		その他 (認定試験・外国卒等)	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
			A	B	B/A	C	C/A	D	D/A	E	E/A	F
学 校 教 員 養 成 課 程	220	230	107	46.5	123	53.5	133	57.8	95	41.3	2	(0.9)
	(220)	(226)	(117)	(51.8)	(109)	(48.2)	(128)	(56.6)	(98)	(43.4)	(0)	-

備 考 : 下段( )は, 平成30年度の状況を示す。



令和元年度教育学部卒業者の就職状況

令和2年3月卒業者

令和2年5月1日現在

課 程	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数				就職内定者数				就職内定率 (%)			
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教員養成課程	233	19	16	17	130	51	198	17	130	51	198	100.0	100.0	100.0	100.0
学習社会ネットワーク課程	39	0	0	11	0	28	39	11	0	28	39	100.0	—	100.0	100.0
生活科学課程	16	0	0	3	0	13	16	3	0	13	16	100.0	—	100.0	100.0
健康スポーツ科学課程	28	6	3	6	2	11	19	6	2	11	19	100.0	100.0	100.0	100.0
芸術環境創造課程	67	8	7	2	18	32	52	2	18	32	52	100.0	100.0	100.0	100.0
計	383	33	26	39	150	135	324	39	150	135	324	100.0	100.0	100.0	100.0

注) 令和元年9月卒業者を含む

## 教育学部附属学校生徒数

1. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	20
	4歳児学級	1	35	35	28
	5歳児学級	1	35	35	27
新潟小学校		12	35	420	407
	複式学級	3	16	48	48
長岡小学校		12	35	420	387
新潟中学校		9	40	360	357
長岡中学校		9	40	360	355
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	17
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	26
合 計		57		1,758	1,690

複式学級は外数

